

## 平成25年第5回邑南町議会定例会(第10日)会議録

1. 招集月日 平成25年6月11日(平成25年5月31日告示)  
 2. 招集の場所 邑南町役場 議場  
 3. 開 議 平成25年6月20日(木) 午前9時30分  
 散会 午後2時52分

### 4. 応招議員

議席	氏名	議席	氏名	議席	氏名	議席	氏名
1番	大和 磨美	2番	瀧田 均	3番	平野 一成	5番	和田 文雄
6番	宮田 博	7番	漆谷 光夫	8番	大屋 光宏	9番	中村 昌史
10番	日野原 利郎	11番	清水 優文	12番	辰田 直久	13番	亀山 和巳
14番	石橋 純二	15番	三上 徹	16番	山中 康樹		

5. 不応招議員 なし

6. 出席議員 15名

議席	氏名	議席	氏名	議席	氏名	議席	氏名
1番	大和 磨美	2番	瀧田 均	3番	平野 一成	5番	和田 文雄
6番	宮田 博	7番	漆谷 光夫	8番	大屋 光宏	9番	中村 昌史
10番	日野原 利郎	11番	清水 優文	12番	辰田 直久	13番	亀山 和巳
14番	石橋 純二	15番	三上 徹	16番	山中 康樹		

7. 欠席議員 なし

議席	氏名	議席	氏名	議席	氏名	議席	氏名

8. 地方自治法第121条第1項の規定により、説明のため会議に出席した者の職氏名

職名	氏名	職名	氏名	職名	氏名
町長	石橋 良治	副町長	桑野 修	総務課長	藤間 修
危機管理課長	細貝 芳弘	定住促進課長	原 修	企画財政課長	日高 輝和
情報推進課長	小林 雅博	町民課長	服部 導士	税務課長	上田 洋文
福祉課長	飛弾 智徳	農林振興課長	植田 弘和	商工観光課長	日高 始
建設課長	森上 寿	水道課長	土崎 由文	保健課長	日高 誠
会計管理者	安原 賢二	瑞穂支所長	川信 学	羽須美支所長	加藤 幸造
教育委員長	河野 義則	教育長	土居 達也	学校教育課長	田中 節也
生涯学習課長	能美 恭志				

9. 本会議に職務のため出席した者の氏名

議会事務局長 沖 幹雄 事務局係長 日高 泉

10. 町長提出議案の題目 別紙のとおり

11. 会議録署名議員の氏名

議席	氏名	議席	氏名
1番	大和 磨美	2番	瀧田 均

12. 本日の会議の概要は別紙のとおりである。

## 平成25年第5回邑南町議会定例会議事日程(第10日)

平成25年6月20日(木) 午前9時30分開議

開会、開議宣告

議事日程の報告

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

## 平成25年第5回邑南町議会定例会(第10日)会議録

平成25年6月20日(木)

—— 午前9時30分 開議 ——

~~~~~○~~~~~

### 開議宣告

- 議長(山中康樹) おはようございます。定足数に達しておりますので、ただ今から、平成25年第5回邑南町議会定例会、第10日目の会議を開きます。本日の議事日程は、あらかじめお手元に配布をしたとおりです。

~~~~~○~~~~~

### 日程第1 会議録署名議員の指名

- 議長(山中康樹) 日程第1、会議録署名議員の指名をいたします。1番、大和議員 2番、瀧田議員、お願いをいたします。

~~~~~○~~~~~

### 日程第2 一般質問

- 議長(山中康樹) 日程第2、一般質問。昨日に引き続きまして、一般質問を行います。通告順位第5号、日野原議員、登壇をお願いいたします。

- 日野原議員(日野原利郎) 議長。

- 議長(山中康樹) 10番、日野原議員。

- 日野原議員(日野原利郎) ええ、10番日野原でございます。ええ、2期目に入らせていただきました。ええ、今後このう、これまでのこの4年間で踏まえ、より一層研鑽をして活力ある地域づくり、まちづくりに向けて、ええ、より一層の議論を重ねていきたいというように考えております。よろしくをお願いいたします。ええ、今回、ええ、2点について一般質問通告をしております。ええ、まず1点目ですけれども、地域おこし協力隊についてということで通告をしております。ええ、これはあのう、地域おこし協力隊ってというのは、ええ、総務省の事業で平成、ああ、2009年度から、の、始まっておりまして、ええ、今年で4年目というようになっております。ま、本町ではご承知のように、ええ、A級グルメ立町の一貫として、ええ、耕すシェフ制度など行っておるところでございます。ええ、まあ、あのう、この3年間、これまで実施してきたわけですが、まあ、本町におけるこれまでの取り組みの状況、あるいは実績、あるいは成果、ええ、ま、今定例会にも4名の、4名分の追加予算案があがっております。ええ、まあ、あのう、今後さらにこの活動進めて行かれるということなんですが、ええ、今後のこ、とりく、取り組み方等についてお伺いをします。

- 日高商工観光課長(日高始) 議長、番外。

- 議長(山中康樹) 日高商工観光課長。

- 日高商工観光課長(日高始) ええ、まず、地域おこし協力隊という制度について少し説明をさせていただきたいと思っております。ええ、地域おこし協力隊とは、人口減少や高齢化等の進行が著しい地方において、地域外の人材を積極的に誘致し、その定住、定着を図ることで、意欲ある都市住民のニーズに応えながら、地域力の維持、強化を図っていくことを目的とする制度で、平成21年に総務省によって制度化をされております。ええ、これは地方自治体が公募を行い、地域おこしや地域などに興味のある都市部の住民を受

け入れて地域おこし協力隊員に委嘱し、隊員には1年以上3年以下の期間で、地域おこし活動の支援や農林漁業の応援、住民の生活支援など地域協力活動に従事してもらうということになっております。ええ、邑南町におきましては、平成23年の10月に1期生として2名を受け入れたのを皮切りに、現在7名が隊員として活動しております。7名の隊員の出身地でございますが、ええ、関東地方が3名、ええ、関西地方が1名、ええ、中国地方が3名となっております。ええ、男女別で申しますと、男性が1名、女性が6名でございます。ええ、年代別に申しますと、ええ、20代が3名、ええ、30代が4名ということになっております。具体的な活動としましては、ええ、本町の地域おこし協力隊は大きく分けまして、ええ、二つの分野があり、ええ、一つは耕すシェフ、もう一つは地域クリエイターでございます。まず、耕すシェフと申しますのは、ええ、文字どおり、野菜などの農作物を育てながら、農地を耕しながら、シェフとして調理の勉強をしようというものでございます。主な、まあ、活動や成果としましては、ええ、レストラン ajikura での研修、矢上高校との共同でのスイーツの開発、地元農家を題材とした農家ライブなどの開催、町内外各地域での料理教室の開催、野菜等の栽培、といったものが挙げられます。ええ、もう一つの地域クリエイターと申しますのは、映像やパンフレットなどを通じて、ええ、本町の情報発信をしようというものでございます。これは主な内容としましては、邑南町のプロモーションビデオの制作、観光ビデオの制作、生産者のPRビデオの制作、ええ、矢上高校生への技術指導といったものが挙げられます。ええ、邑南町がこの地域おこし協力隊の制度を活用して取り組んでおります、特に耕すシェフの研修制度は、ええ、非常に全国的にも注目を集めまして、総務省が考えた従来の地域おこし協力隊の考えから、さらに発展をし、事業、この事業終了後の食と農の起業家になるという本町独自のシステム構築が高く評価をされ、平成24年度には過疎地域自立活性化優良事例として総務大臣表彰を本町が受賞した大きな決め手となりました。ええ、その他まあ、主な受賞の実績としましては、平成24年度には総務大臣表彰の他にNPO法人が主催しておりますETIC地域仕事づくりチャレンジ大賞の審査員の特別賞、あるいは日本経営協会の自治体総合フェアでの官民共同のまちづくりのグランプリの受賞などがあり、ま、こういったことでマスコミに多く、まあ、露出するというところで、ええ、本町のPRに大きくこの制度が貢献したというふうに考えております。ええ、また本年4月にはこの耕すシェフという言葉が商標登録をされております。ええ、ま、今後の計画としましては、特に地域クリエイターとしましては、ええ、デザイナーや公園の管理者、産直市の担当者として様々な分野で能力のあるIターン者を迎えることなど、ええ、を検討しております。また基本的な考えとしまして、この制度自体町が本人に委嘱をして協力隊に任命するということですので、町の振興になることが採用の基準であります。ええ、また最長3年間事業を展開する中で、ま、将来的に本町で定住できるというサポート体制が整っている団体に受け入れを行っていただくということが必要ではないかというふうに考えております。以上でございます。

●日野原議員(日野原利郎) はい、議長。

●議長(山中康樹) 日野原議員。

●日野原議員(日野原利郎) はい、あのう、まあ、この地域おこし協力隊というのも、まあ、これまでの町の取り組みについていろいろご説明をいて、いただいたわけですが、あのう、3年前にこれ始まっておりまして、まず、あのう、3年前まあ、私も聞いてはおったんですけども、それ以降若干、まあ、勉強不足であったなあというように、もう、痛感をしとるんですが、あのう、先のあのう、私の今回産建常任委員会に所属をさせていただいて、常任委員会の中でこのう、今回でと、出ております4名分の追加予算につい

ていろいろ議論をする中で、あのう、まあ、私なりにこういろいろ考えて、ああ、そうか、こういうことだったんだなということで、まあ、あのう、今回こうして質問にたたした、立たしていただいたわけなんです、あのう、まあ、私で言いますと、もうちょっとあのう、もうちょっと今、もちろん今の耕すシェフの取り組み自体、非常にこう全国から注目をあ、あのう、集めるような事業でありますし、あのう、十分こう、あのう、効果も出ておるといように、あのう、理解はしておりますが、ええ、もっとう地域に根付いたこう、できないかなあということが、ふとあって、まあ、その後あのう、総務省のあのう、ホームページをこう、あのう、開いてみて、この協力隊についていろいろこう見てみたんですが、確かに先ほど言われるように、あのう、まあ、あのう、昨年で言いますと、全国で617名、あのう、さんぷ、3府県204町村で617名がこう、あのう、それぞれが地域に入っておられて、ええ、ま、20代、30代で大体80%、全国のこの昨年の例で言いますと、定住に結びついたのが、ええ、67%というように書いてありますので、これ非常に高い確率で、ええ、すごいなというように、まあ、あのう、感じたわけです。まあ、活動等については先ほど説明がありましたので重複しませんが、ええ、そうこうしておりましたら、あのう、この前ある新聞に、あのう、3回連載で、ええ、この地域おこし協力隊について出ておりました。これはあのう、見ましたら、隣の美郷町の例が載っておりました。あのう、美郷町ではあのう、こう3人の例をこう3回に分けて紹介をされておるんですが、これはあのう、ええ、まあ、例えばあのう、農業支援ということで集落に入って、まあ、自分も将来農業がしたいという気持ちがあったようなんですが、あのう、集落に入って、ええ、地域の人達といろいろ話をする中で、ええ、当面は、ああ、ずうっと草刈りを、あのう、続けておって、まあ、あのう、一周するとまた次の草刈りが回ってくるようなことで、あのう、1年間過ごしたというようなことから、まあ、その後集落の方といろいろ酒を酌み交わす間に、自分も農地を借りて百姓をするようになったというようなことが、ああ、載っておったり、またあのう、スーパーが閉店なったあと、引き継いで、ええ、協力隊の方がやっておられる例もありますし、いろんな地域のイベントを専門に、こういろんな活動をやっておられるというのが載っておりました。まあ、美郷町もあのう、ええ、県内では一番おいしいようできて、ええ、島根県が91人の内美郷町では13人入っておられて、まあ、あのう、全国でもこう4番目におお、あのう、多く入っておられるようです。まあ、ただ、美郷町の場合まあ、あのう、やっぱり隊員の思いとそれと地域の思いがなかなかこう結びつきが難しいいうのもこうしっかり載っておりますけども、始めて以降35人こう着任されたんですが、11人が任期中にさ、あのう、かえったい、帰っていかれたと、定住経験者は3人しかいないというように書いてあるんですが、まあ、それにしてもそのう、3人の、35人入って来てそのう、若い息吹がそのう、各集落あるいは地域で、こう地元の人といろんなまじあうというのは非常にこうすばらしいなというように、あのう、いうように見させていただきました。で、まあ、今の取り組みはともかく、あのう、そうした取り組みをすべてやるというても、それなかなかできないことだと思うんですが、まあ、一つの案として私なりにこう最初に思ったのが、あのう、いわゆる今、あのう、各地域で法人、営農法人がああ、立ち上がって、こう活動されておりますけども、それにしても、それとか集落営農組織、我々のところもあるんですが、集落営農組織も立ち上げたのが、まあ、概ね20年前後もう経っておるわけです。で、当時今でいう団塊の世代の方が中心になってそういった集落で営農組織を起し、法人に向けて立ち上げていった、ただ、その後なかなか若返りが図れず、あのう、まあ、労働者の確保に苦労しておったり、またやっぱり増えれば増えるほど草刈り等の作業も増えるわけです。ま、

それとかもちろん、あのう、集落当たりで言いますと、各農家も高齢化をしてなかなか、まあ、水稻、稲作自体はそうでもないにしても、ま、とにかく農地の管理がたいへんであるというように、あのう、言われておるわけです。で、またあのう、私、和牛振興、和牛生産者についても、ああしてあのう、高齢化をされて若い人が牛を飼うというのがなかなか進まないということで、邑南町にあります和牛改良組合の中でも、ええ、私まあ、あのう、年に1回こう懇談会で話をするんです。ええ、こんなあ、いろんな研修制度があるんだけど、和牛のそのう、研修生を入れるというのが、いうことはできんのかいなあというような話も、あのう、聞かしてもらおうわけです。そして、たとえばその若い人が入ってきて、一緒にわぎゅう、あのう、飼育をする中でまた自分たちも牛を1頭でも2頭でも飼ってみようかという気になっていただければうれしいがなあというような話を、あのう、聞くわけです。ま、それよか、あのう、先ほどあのう、美郷町の例も言いましたが、商店街も昔は軒並み店が並んどったのがだんだんだんだんなくなっていくというのが、まあ、今の現状じゃあないかと思うんです。まあ、そうしたこともあります。まあ、あのう、考えればいろんなことが考えられてすべて、ええ、これでというわけにはいかないかも分かりませんが、おう、なんとかそのう、地域おこし協力隊と非常にむす、むすびがつきやすいんじゃないかなというような、あのう、気がするわけです。で、この前のさん、常任委員会の中でも話が出たんです。まあ、今あのう、このう制度をしっかりと理解をして活用しておる、まあ、商工観光課が、まあ、やっておるわけですが、まあ、その他、産業課、建設課、農林振興課、まあ、そういった諸々いろんな課で、いろんなこう、自分の担当する分野で、ええ、こういった地域おこし協力隊、協力隊を活用するということが、ひとつ課内、あるいは庁舎内で議論されたりしたことがあるのかなあというような、私、気がしまして、ぜひとも今回こう一般質問を、あのう、してみたかったんです。まあ、あのう、先ほど言いましたように、ええ、ま、こうしたいろんな取り組み、取り組むにしても、先ほど課長もちと、ちょっと言われましたけども、まず1番肝心なのは受け入れ者側があるかと、ないかということと、まあ、それに見合う隊員の方がおられるか、もちろんそれを仲を取り持つくちょう、町をコーディネートする町自体、ええ、しっかりそうした、ああ、コーディネートができるか、まあ、そういうところが、あのう、あると思うんですが、まあ、それは全体を含めて、ええ、いわゆるあのう、邑南町として、ええ、行政がこれまでつよき、地域おこし協力隊という制度が始まって以来、まあ、例えば住民あるいは団体等へPR活動等して、周知をされたのかなあというのが一つ疑問に思ったんです。で、まあ、今回質問したのは、あのう、ま、これまでのことはこれまでのことなんですが、今後この地域おこし協力隊の活用について、ええ、町として、まあ、各担当分野として、ええ、こうした取り組みを考えていこうかという気があるかないか、まあ、そのへん、あのう、まあ、今ここで即決というわけにはいかないと思うんですが、まあ、そうした考えはどうかなということ、まあ、お考えをお聞きしたいというように思います。

●**原定住促進課長(原修)** 番外、

●**議長(山中康樹)** 原定住促進課長。

●**原定住促進課長(原修)** 地域おこし協力隊の全国における状況は先ほど議員さんおっしゃ、おっしゃいましたとおりでございます。で、他の特徴的なことを申しますと、ええ、北海道では、まあ、観光PRなどを都市との交流や健康診査の普及かつ、啓発を行っているとか、新潟県十日町市では企業の研修誘致を行っているとか、ま、邑南町はそのガイドブックでは観光協会のレストランにて調理研究し、食の起業を目指すと紹介されておりまして、ええ、島根県飯南町では休耕田の耕作、石窯を活用した交流事業の企画実

施など、また、特徴的な所、ながさきせん、長崎県対馬市では有害鳥獣対策としてのレザー製品を開発というように紹介されております。こうした事例を踏まえますと新たな取り組みというのは、ああ、十分考えられます。ただし、この制度は補助金とか助成金があるというのではなく、特別交付税でその財源補填があるというものなので、各課において趣向を凝らした制度設計をされ、活用すべきものと考えられます。そこで役場内各課での取り組みですが、ああ、特別交付税の枠というのは県により示されるものでもあり、その点については企画財政課の方に説明していただきたいとも思いますが、ああ、隊員の募集に関しては、まあ、これまでのノウハウもありますので、商工観光課とも協議して進めていきます。またUIターン者に、UIターン者を受け入れる面では定住促進課が関わっておりますが、当町においては、集落を支援するという面からはこの地域おこし協力隊と同じように集落支援員という制度があり、地域再生プロジェクト事業におけるこの地域マネージャーというのは、この集落支援員として位置付け、同じく特別交付税の措置を受けているものであります。また新たな取り組みを考える前に、なぜ邑南町においてこの地域おこし協力隊がここまで脚光を浴び、そして数々の賞を受けるに至ったか、なり得たのかということですが、それは邑南町および観光協会にこの制度における都市部の若者達を呼び込む魅力、キャッチがあったからで、自らが丹精込めて育てた自信の持てる食材を使った料理を提供し、それを食べて頂くことに幸せを感じるその技を起業に結びつけませんか？というその夢と希望をそそるシチュエーションに憧れて、応募する若者があったわけで、単に労働力としか見なさない受け皿、受け皿の現場には誰も応募されないでしょうし、3年後のその方の人生を考えると、このう、定住を支援促進する町としては無責任な勧誘は避けるべきとも考えます。従って安定的に人材が供給できるシステム、例えば、3年後には違う人がまた訪れるというケースもあり得るとして、そうしたシステムが構築してあることが第一条件であり、さらには、協力隊員をメンタルケアする専門職員の配置なども必要かと考えます。本当に地域に必要な人材をセレクトして、募集すべきであり、ええ、地域の課題がその地域にはいない専門性のある外部人材の登用により解決できるかもしれないというような方を活用していくべきと考えます。

●日野原議員(日野原利郎) 議長。

●議長(山中康樹) 日野原議員。

●日野原議員(日野原利郎) はい、あのう、まあ、あのう、本町が今までこう耕すシェフ制度を取り組んできたということについては、あのう、非常に全国からも評価もされて、このホームページのあのう、総務省のホームページも写真入りでこう例として、載って、挙がっております。あのう、まあ、今、さき、まあ、課長が答弁されたように、やはりそのう、一つの考え方というのを今後継続的にやっ、あのう、やっていくためにもそのひとつの考え方をしっと、やっ、いかにやあいけんというところもあるかというように思います。あのう、まあ、どっちかいうと、あのう、私も、あのう、まあ、のうり、今農林商工連携ビジョンやこの日本一の子育て村構想等で、ええ、まあ、全国このう注目を浴びておるわけです。まあ、それで、あのう、いわゆる町をほんとに活性化しようと、盛り上げていこうということは、やっぱりあのう、地域、集落が元気でなければなかなか、あのう、基盤が、足下が、あのう、揺らぐようじゃあ、どうしようもないんじゃないかなというところがあるわけです。で、あのう、先ほど来、私もちよつとまとめが難しいんですが、あのう、いろんな、何もかもこう欲張るという意味ではないんですが、若干、そういったあのう、この地域、ここの我々の団体をなんとかもうちよつとしたんだというような、そのう、ところへこうした事業をもう一つ投げかけて、ええ、

若い息吹を吹き込んで、その活力を生み出すというようなことを、まあ、あのう、これからしっかり、課内、あるいは庁舎内で議論をして、ええ、いい案を出していただきたいなあという気がするわけです。まあ、それだけ申して、町長さん、ひとことお願いします。

●石橋町長(石橋良治) はい、議長、番外。

●議長(山中康樹) 石橋町長。

●石橋町長(石橋良治) まあ、日野原議員さんのまあ、地元の実態というものを踏まえてこの地域おこし協力隊制度の更なる拡大充実の話がされました。まあ、一つの考え方だろうというふうに思います。ただあのう、課長が申しあげましたように、これはあのう、3年後にこれ自立してもらわなきゃならない、このことが大前提で、あのう、単に労働力として雇って、あとは3年後には給料でませんよみたいなことになるとなんにもならないわけですし、で、まあ、私もびっくりしたんですけど、今美郷の数字を聞いて、35人も応募して何十人も辞めていったみたなねえ、これはちょっと私は本末転倒じゃあないかなあと、やっぱり私は量よりも質だ、とにかく全員が残っていただいてやっぱり地域に貢献をしていく、まちづくりに貢献をしてもらうようなやっぱり優秀な人材をです、やっぱり雇うのが必要。で、さん、3年後には自立できるように我々は支援をすると、ということです。で、それはつまり我々の狙いというのは起業なんですよね。新しい仕事を作っていただくというような、彼らに。そして仕事がないないと言いつつも彼らが新しい仕事を作っていただければさらにそこで雇用が生まれるかも知れない、ということをご期待されるわけです。で、そういうようなやっぱり優秀な人が集まれば集まるほど人脈を持ってますから、今度は人が人を呼ぶというような好循環になってくるようなことになるわけでありましてね、あのう、ただ単にあのう、困ってるからどんどん、ああ、集めろ、集めろということはどうなのかなというふうには思っております。まあ、しかしながら話を元に戻しますと、まあ、例えば営農法人とか、集落営農にもたいへん今厳しい状況があるんでどうかということについては、これはあのう、一つの相談をする、一つのことだろうとは思いますが、ただ、いきなりそこへ3年間なり配置しますと、これこそあのう、単なる労働力に終わってしまって、いやんなるケースも出てくるんじゃないかと思っております。邑南町の場合、せっかく農業研修制度というのがありますから、ほんとに農業をやりたいのであればそこで1年間しっかり農業をやってもらって、それからの今度は次のステップになるんじゃないかな、そのところに地域おこし協力隊制度が使えるのであれば使ってもいいだろうし、ということで、ええ、やっぱりこうよく考えながらですね、やっぱりこの制度は使っていく必要があるんじゃないかなあともまあ、いうふうに思っております。要はいかに残るかということでもありますので。

●日野原議員(日野原利郎) 議長。

●議長(山中康樹) 日野原議員。

●日野原議員(日野原利郎) はい、あのう、まあ、このちいき、地域おこし協力隊という制度はまあ、ひとつはこういう制度だということです。まあ、あのう、今後もですね、あのう、やっぱり先ほど言いましたように地域、団体、ええ、そうしたあのう、集落あたりが元気になるようにやっぱりいろんな方策、まあ、国の制度、県の制度、町独自の制度、しっかりこのう、議論をしていただいて、ええ、いい案を、まあ、これまでもたいへんいい案をどんどん出していただいておりますので、あのう、しっかり皆さん方でいい案を出して、またや、続けていていただきたいというようにお願いをしておきます。そうしますと次の、新エネルギー導入に向けての取り組みということで質問を出しております。ええ、まあ、あのう、この新エネルギーの導入については、平成20年2月に

この新エネルギービジョンというのを策定をしました。まあ、それ以来、ええ、この議会等でも何度か、ああ、導入に向けた議論がこう、なされてきたところです。まあ、私も3月定例会でこの件について一般質問をしようとしたのですが、ええ、時間切れでちょっと次回に回しますというようなことを言ってしまいました。まあ、あのう、今回、まあ、こうしてここに立てることになりました。まあ、若干、質問の内容がこう変わっていますけども、まあ、この件についてもう一度お伺いをしたいというように思います。あのう、一昨年でしたか、新エネルギー、職員の中で、まあ、新エネルギー政策研究会というのが立ち上げられまして、ええ、その後2年間いろいろこう検討がなされてきました。ええ、今回総務常任委員会の資料の中にこの報告書が、あのう、出されておりました。まあ、この件について若干お伺いをしたいというように思います。まあ、私、ちょっとそれをざっと一読をさせていただきました。あのう、まあ、第一印象、この報告書というのは要するあのう、当初作った新エネルギービジョンの中身と、まあ、若干いろいろ方向性なり、細かく、こう検討されている点はもちろん解るんですが、まあ、たい、だいたいた的にはあのう、ほとんど内容は一緒であると、大差はないというように私は理解します。要する、邑南町としてこの新エネルギーの導入に向けてこれからどういうようにやっていくのか、まあ、あのう、また後ほど出てきますけども、ええ、今後どういうように進めていくのか、それには当面こっから始めようかというような、そういうことが今後ひょっとして出てくるのかなあと思ったら、あのう、例えば太陽光、木質バイオ、小水力、まあ、これらまあ、その他考えられます。提言をしますという形なんで、まあ、ほんとあのう、報告と、研究会の、職員の報告書とすればどうも、あのう、あれかなというような気がしたんで、ええ、今回質問させていただきました。ええ、まあ、これをどういうように活用して、どうように進めていこうとしておられ、おられるのか、それについてお伺いをします。

●日高企画財政課長(日高輝和) 議長、番外、

●議長(山中康樹) 日高企画財政課長。

●日高企画財政課長(日高輝和) ええ、まず、職員エネルギー政策研究会の報告の関連でございますが、その前に、ええ、あのう、エネルギー研究会の、まあ、報告、あのう、エネルギービジョンと大差ないというお話がありましたので、そのへんを少し、ええ、説明をさせていただきたいと思います。あのう、邑南町の新エネルギービジョンにつきましては平成19年度、平成20年の2月でございますが、策定をしております。ええ、これは地球温暖化対策のための位置づけということがございまして、ええ、環境に優しいエネルギーを生かす町ということで、ええ、循環型エネルギーの導入促進とエネルギーじきゅうれつ、自給率の向上を目指す指針として、ええ、これは策定をしております。ええ、その中で基本方針としましてはエネルギーの地産地消、新エネルギーの導入と産業振興の両立、ええ、町民参加による新エネルギーの導入、環境のまちづくりの推進ということで、ええ、太陽光エネルギーや木質バイオマスのエネルギーを始めとする様々な、ええ、循環型エネルギーの内容について、ええ、計画を立てております。あのう、目標値としまして、ええ、本町のエネルギーのじゅ、需要量を推定しまして、その中の、ええ、全体の3%というのをにせん、ええ、平成32年を目標として設定をしております。ええ、この中で、ええ、このビジョンの中で、ええ、それぞれのエネルギーについて利用可能性について、ええ、検討しておりますけれども、ええ、太陽光、木質バイオあるいは廃食油、ええ、それからクリーンエネルギー自動車については、ええ、これは積極的に導入していこうという方向でした。ええ、それから風力、畜産バイオマスについては長期的に導入を検討していきたい。それから中小水力、ええ、雪氷熱、

あるいは地下水熱、廃熱利用等については当面町としては、ええ、導入を検討しないというふうに、エネルギービジョンではしております。ええ、しかしながら、あのう、このエネルギービジョンを策定した後に、ええ、東日本大震災がございまして、ええ、それを受けまして再生可能エネルギーの政策が大きく変わってきたところでございます。ええ、中でもあのう、一番、あのう、ありますのが、ええ、固定価格買い取り制度の施行ということがございました。ええ、これによりまして、あのう、民間事業者の方が大きく参入することを、大きく後押しする政策になってきました。ええ、職員の、ええ、エネルギー政策研究会はこのような状況を、や、状況の変化を受けまして、ええ、町にや、町内における再生可能エネルギーの活用について、ええ、その導入可能性について再度検討する必要もあるというところ、ことで、ええ、検討を行ったものでございます。ええ、特に、ええ、その中で小水力発電につきましては、ビジョンでは先ほど申しあげましたけども、ええ、当面導入は検討しないというようなビジョンではしてございましたけれども、ええ、固定価格買い取り制度により、あれ、あれでも採算性の合うところがあるんじゃないかというような議論が、ええ、町内全体でもありましたので、ええ、そういう意味でも再度検討をさしていただいたという経緯がございます。ええ、ということで、ええ、この政策研究会でございますけれども、あのう、平成23年8月に発足しまして、ええ、町内の再生可能エネルギーについて、主に木質バイオマスの利用と小水力発電の導入可能性について、ええ、調査研究を行いまして、本年3月27日に町長に対して研究結果を報告していただきました。ええ、まず、木質バイオマスの利用につきましては、ええ、さいせい、再生産が可能な自然エネルギーであり、森林面積が86%を占める本町において、これは利用を進めるべきという提言を受けております。ええ、具体的には、各種ボイラーやストーブの普及、町内の供給体制の整備などを提言いただいております。しかしながら、またあのう、この報告書をまとめたいただいた直後でございますけれども、まあ、県内に大規模な木質バイオマス発電の建設計画があるというような報道もされておりました、具体的に動き出しております。ええ、ま、この発電所へ供給するための燃料チップの生産計画も具体的に動き出して、出すなど、やはり本町をとりまく状況が、あのう、また変わるのではないかというような認識ももっております。ええ、木質バイオマスの活用につきましては、森林の保全、地産地消、雇用の拡大、所得向上などにつながるものと考えられます。ええ、しん、森林資源の状況も踏まえた利用の在り方について、関係各課の連携とともに民間事業者の方も含めて、ええ、検討していきたいと考えております。ええ、小水力発電につきましては、あのう、候補地を選定しまして、ええ、専門家による調査を実施したところでございますけれども、採算性の面で、これは良い結果が出ておりま、出ませんでした。ええ、規模の特に大きなものを町で行うことは困難であると考えておりますけれども、ええ、調査結果については情報を広く提供していきたいというふうに考えております。また、あのう、その他のエネルギー利用につきましては、現在、ええ、住宅用太陽光発電の補助事業を継続しているところですが、今後、財政的に、ええ、町の負担が少なく、公共性の高いものについては、事業実施の可能性もあるのではと考えております。以上でございます。

●日野原議員(日野原利郎) 議長。

●議長(山中康樹) 日野原議員。

●日野原議員(日野原利郎) まあ、あのう、この政策研究会でええ、出されました報告書、まあ、あのう、職員の方があのう、いろんなまあ、こう制度あるいは社会情勢が変わる中で、ええ、研究をされたりいろいろ検討された結果で、まあ、大差がないと言った、まあ、これちょっと言い過ぎかも分かりませんが、あのう、まあ、あのう、その結果を

こう見ますと、提言こう、いろんな先ほど言いましたように太陽光、木質バイオマスとかまあ、小水力、そういった、あのう、提言ちょっとしてこういうことも検討できる、できるというようなことで、まあ、あのう、補助制度も検討すべきというようなことも書いてあるんですが、まあ、あのう、いずれにしてもこのう、ようは出されているものを、できそうなものを全てをこう取り組むというのはおそらく無理じゃあないかなと、まあ、私なりに思うわけです。で、まあ、あのう、また後ほど話をしたいと思うんですが、あのう、やっぱり邑南町として、そのう、現在は太陽光発電というのを、まあ、学校施設、公共施設を中心にこうやってきておりますし、ええ、各家庭への太陽光、まあ、1キロワット1万円の補助金、4万円を限度としての補助金を出すというような制度も今やっておられるわけです。まあ、あのう、太陽光でいくのか、木質バイオマスでいくのか、ある程度こう、あのう、方向性を示して、ええ、今後そういった事業をどういうように拡大をしていきたい、あのう、いくのかっというところが、どちらかというところのへんを早く示していただきたいというように思うわけです。で、ええ、そのことによって、ええ、町民に、あのう、広くアピールをして、ええ、町民の方にも協力を願って、そのう、いわゆる循環型のそういった新エネルギーの導入をさらに、ええ、拡大を、あのう、導入の拡大を図っていくという形の、太陽光もやり、木質バイオマスもやり、小水力も考えるというような、ではなかなかそのう、じゃあ、あのう、見えない部分が多いんじゃないかなあかな、ないかなあというように気がしました。それと同時に、ええ、いわゆる今あの、その研究会といいますか、そういった部署、あのう、企画財政課の方で担当した、おられるわけですが、実際にそうしたあのう、いわゆるこういった新エネルギー導入に向けての事業を進めていく上で、ええ、いったいどこが一番大元な事業、事業課として大元になるのかなあという気がしたわけです。で、ええ、今後企画財政課なら企画財政課、あのう、まあ、他の課なら他の課が、これが中心になってこの新エネルギー導入に向けての施策はやっていくよと、ほんで、まあ、内容についてはこういう形で、ええ、進めていくというのをある程度、ある程度、こう明確にして欲しいという気がするんですが、ええ、そのへん町長さんいかがでしょう。

●石橋町長(石橋良治) はい。

●議長(山中康樹) 石橋町長。

●石橋町長(石橋良治) ま、今後の進め方でございます。やっぱり議員のご指摘のように、大体あのう、私どもの、そのう、もろもろのエネルギーの状況というのがこれで分かってきたということでもありますから、じゃあ何に絞って今度は具体的にどういうふうにしていくかっていう段階だろうと思います。ま、そういう意味で、ええ、報告書をもって有り難かったんですけども、ええ、まあ、私としてはやはり循環型の、大きな循環型のまちづくりという観点から立てば、やっぱり山の問題、これが一番、私どもが一番大きな問題ではないかなあ、まあ、林野率が86%という町でありますから、これをどう生かしていくかが、やはり再生エネルギーという形では一番これからは問われるときであろうということが今回分かりました。ええ、さらに、まあ、水力については期待をしておりましたけども、やっぱりあのう、かなりの投資がいるということも分かってきたし、場所も分かってはきましたけど、これはなかなか町単独で手に合うことはできないということでございます。ええ、それからまあ、あのう、若干あのう、これからのことでもありますけども、太陽光についてはご案内のように元気館に今度つける、まあ、太陽光についてはやはり国の交付金等が継続する限りはそれを最大限利用して公共施設を中心にやっぱりやっていくということが大事。それからあのう、座談会で、ええ、田所の方で出たわけではありますが、道の駅に電気自動車に対応できる、まあ、充電設備をお

願いたいということでございました。で、最近はやっぱりそういったものが、だんだん増えてきますので、ええ、電気自動車等々が、で、早速あのう、担当課と一緒に私、県の方へ行きましてお願いをしておきました。あのう、県の方も今までは慎重姿勢だったんですけども、ま、国がかなり今度は積極的にこう、出てくるということがあったものですから、県はそれを受けて今、ああ、その候補地に選定に入っているようでございましたので、その中に道の駅も入れて欲しいということをお願いをしておきました。ただ、まあ、この運営については有料とか無料とかいろいろあるわけではありますが、ああ、ま、それはそれ、ともかくとしてお願いをしてるということでもあります。で、そういったことがある中で、まあ、木質でやっぺいこうと、木質バイオマスでやっぺいこうということでもあります。ま、これとて、あのう、まあ、江津市で、ええ、江津の団地で行われるバイオマス発電等々についてはこれはやっぱり民間が主体でやっぺいかなきゃなりませんし、なかなか町がそういうものをですね、やるというわけにいかない。ただ、可能性としてはそれは誘致をして今後そういったものも邑南町に考えられんではないけれども、現段階ではまあ、あのう、誘致がされてない中で難しい。それと同時にまあ、木質バイオマスというのはやはり発電もあつ、発電をして売電という方法もあるかもしれないけどもやっぱり熱供給ということがあると思います。燃やしてそれを熱に変えていくっていう問題。で、これもですね、やはりかなりの大規模なシステムで熱供給をどんどん、それぞれの施設に送っぺいこうとしてもですね、今度はまあ、需要側の量の問題があつてですね、採算が合わないということがまあ、いつぞやのNEDOの、ま、町内の結果も、まあ、判明したということでもあります。ええ、従つてまあ、当面やはり一歩踏みか、踏み込み出さなきゃなりませんので、この木質、木質を使ったやはり手に合うその熱供給の方法を考えたいということで、ええ、これはまだ、あのう、課内でも十分に議論はしてないんでありますけども、例えば一つの例として、ええ、ま、ロケットストーブというようなものがあつて、これは丸太を入れて燃やせばどんどんこう熱が出て来て加温等に役立つというようなことがあつてですね、これは比較的取り組みやすいかなと、まあ、そういうところからやっぺいこう。で、それをまあ、試作品をですね、まあ、町内の企業にお願いをして、まあ、できるだけ安くですね、そういったものを作っぺいただけるような、まあ、ことを願います。まあ、そのための予算措置もそういうことになれば必要なのかなということでもあります。まあ、そういうことで最後にあのう、じゃあどこが担当するのかつということでもありますけど、まあ、これもまだ正式に課長会議を開いての話にはしておりませんが、まあ、私がこうやって木質で今後はとにかく突っ込んでいきたいということをやっぺい以上ですね、やっぱり今度は事業課である農林課、まあ、その中でもやはり地産地消という循環型ということでもありますから、地産地消推進室等でやはり研究推進をさせたいなあというような思いでございます。

●日野原議員(日野原利郎) 議長。

●議長(山中康樹) 日野原議員。

●日野原議員(日野原利郎) あのう、まあ、今ええ、町長にお答えをいただきましたので、ええ、あと若干私の、まあ、あのう、今思つておる、あのう、おりますことを述べて終わりにしたいと思うんですが、ええ、この報告書の中で、ええ、小水力の利用について、まあ、小水力発電ですね、まあ、これはあのう、ああ、事業主体を民、直営とするのか、民間企業の参入で行うのか、いわゆるファンド方式でやるのか、まあ、そういったこともあのう、載つておりました。これも以前からいろいろ議論を、あのう、してきたところです。まあ、あのう、先ほど課長の方から答弁がありましたように、平成24年にこう再生エネルギーの固定価格買い取り制度というのが始まつて、企業が非常に積極的に

算入をしてきておるといふ中で、ええ、まあ、あのう、昨年の総務常任委員会で、ええ、山梨県の方に我々も視察を、行政視察をさしていただき、まあ、山梨県と言えはあのう、条件が全然違います。あのう、富士山を背景に非常に湧き水が豊富で、あのう、水力発電にはもってこいのちい、土地柄だなというように私も感じたんですが、まあ、そこで、ええ、三つの市を訪ねて歩いていろいろお聞かせをいただいたり、見さしていただいたり、をしたんですが、まあ、いろんなやり方を、ファンドあるいは民間といった形でやっておられました。で、あのう、最後にあのう、ええ、東京に戻りまして、ええ、いわゆる実際そのう、民間企業としてそういった小水力発電取り組んでいる企業を訪問をさしていただいて、ええ、話を聞かしていただきました。まあ、あのう、全国にもあちこち手がけておられるようですが、要するこの内容は、ええ、いわゆる民間企業が計画から建設、きよにん、計画から許認可、建設全ての業務を民間企業が行って、ええ、完成後は町からその施設をあずかって、ええ、いわゆる町の施設、行政の施設として建設をしてそれを預かって、ええ、企業が運営をし、売電をしてその建設費等を償還をしていくと、概ね15年程度で償還を完了したら町の方に返すというようなまあ、事業があるんだそうです。で、どうですかというような話があったんですが、まあ、あのう、その企業の方も言われるのは、ええ、いわゆる行政の方が、ああ、本気でそういうように考えていただけるのであれば、我々はどこでも行って相談にのりますよというような話もありました。ええ、果たして先ほど課長が言われましたように、この地でそれだけ豊富な水量を確保できるようなところがあるのかなのかという点もあるわけですが、まあ、あのう、まあ、これも一つはあのう、検討できるんじゃないかなというように思うわけです。それとあのう、昨日この一般質問を一生懸命夜考えておりました。終わってからテレビをつけました。ちょうど、ちょうどこの最後を番組の30秒ぐらいしか最後のところ見てないんですが、あのう、バイオマス産業都市というのをあのう、やったりしました。どっかなあと思ったら、あのう、下川町、北海道、東北の下川町、あのう、な、まあ、いろいろやとられる町で、ええ、まあ、ここもこことはちょっと条件的には違うんですが、面積もうちより若干大きな面積で90%が山林という町だそうです。それが今回、ええ、いわゆるバイオマス産業都市というので、ええ、国から認定を受けたということで、テレビでいろんなことをやっておりました。これはあのう、要する木質、まあ、木質バイオ、これを、の、げん、原料の生産から収集、運搬、製造、利用まで経済性が確保された一貫システムをつくって、こうやっていっておると、ほいで、まあ、森林組合あたりで言いますと、今全国各地から、ああ、ここに雇用してほしい、一緒にやりたいということでやとられました。きゅうじん、90人ぐらいの従業員でやとられて、尚かつ20人ぐらい待機者がおるといふようなこと、まあ、あるいはあのう、町長さんがあのう、16、あのう、合併の時に、ええ、16年でしたか、合併するも難しい、合併しないも地獄、どっちゅうとるかと言うたときに、いろいろこう町内で検討した結果、まあ、どうせどっちもしんどいんならせずに我が町一つ、あのう、自立できるようにしていこうということでその当時からこのバイオ木質バイオボに、バイ、あのう、バイオマスに、こう取り組んだというようなことがちょっと町長最後に話をされとりました。で、すぐまたあのう、これホームページを出して、時間がなかったんでザザザーとしか読んでないんですが、ええ、16年度からいわゆる製材端材や木屑等原料とする、原料とする木質バイ、ボイラーをずうっと各家庭にこう導入をしてきたと、で、そう、あのう、全戸の町内全部のエル、エネルギー転換をずうっとそれから続けてきて、今回このバイオマス産業、バイ、バイオマス産業都市というのを全国で、こう、ろく、8地域が選定されたということでこれも、選定されて載っておりました。ええ、まあ、

あのう、バイオマス、木質バイオもあのう、まあ、ここも先ほど言われましたように、ええ、85%ぐらい、80%以上の山林なわけで、ま、それを山を生かすというのは十分考えられます。ええ、この先ほど言われましたあのう、ストーブ、木質のいわゆるポイラー、まあ、そういったものをどんどん家庭に配布する、あのう、配布いや、あのう、助成をして入れてもらうというようなことも一つ考えられると思います。まあ、あのう、太陽光でも補助金を出しておりますけども、太陽光、今のこの木質バイオ、まあ、それぞれいろんなこう、考え方があろうかと思えます。ええ、いわゆるそのう、もうちょっとこう、このエネルギー政策というのを真剣にこう、道筋を示して、ええ、町民からみてもああ、こういうようにやるんだな、我々もこうせにやいかんだなという方向が見えるように、ええ、はやい、早いところでこう、示していただきたいというお願いをして、ええ、私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

●議長(山中康樹) 以上で日野原議員の一般質問を終了といたしました。ここで休憩に入らせていただきます。再開は10時40分とさせていただきます。

—— 午前10時25分 休憩 ——

—— 午前10時40分 再開 ——

●議長(山中康樹) 再開をいたします。続きまして通告順位第6号辰田議員登壇をお願いします。

●辰田議員(辰田直久) はい、議長。

●議長(山中康樹) 12番、辰田議員。

●辰田議員(辰田直久) はい、12番辰田でございます。ええ、私は今回、ええ、3点について通告しております。ええ、今はあのう、雨も小康状態になっておりますが、気温にいたしましても降水量にいたしましても、記録的な、ああ、変動が、ああ、見られるように、ここ数年は世界的規模で異常気象が多発し、自然災害の発生と共に様々な生産活動にも大きな影響を与えておるような事象が多くみられると思います。ええ、また領土や歴史を発端とした国家間の不協和音や、ああ、トルコ、ブラジルに見られるような国民や住民を無視した政府主導の政治に異を唱える現象も目立ってきております。ええ、国民であろうが住民であろうがやはり人が安心して生活していくには、安全な環境の元で、不公平のない社会と経済的にも制度的にも安定した元で、ええ、生活が送れることを求められているように感じる今日この頃でございます。ええ、さて、ええ、この春の議会改選にあたりまして、有権者の皆さまを中心に、ええ、町民の皆さまにお約束をした事柄、そして平素からの要望や指摘されておりました改善すべき点の事項を中心に、ええ、この度は定住対策、環境インフラ整備、小中学生の日常について3点を質問させていただきたいと思えます。ええ、改選後初の一般質問でもあり、私も初心に返り、改めて基本的な質問や提案をいたしますので、執行部におかれましても必然的に前向きな答弁と対応されると思えますので、それを期待しながら質問に入らせていただきたいと思います。ええ、まず最初の質問であります、定住対策についてでございます。ええ、定住対策という課題は永遠のテーマのごとく、なかなかその解決策を見つけることが難しいとも思われます。ええ、私も合併以前の旧町村時代から、ああ、定住をテーマとした一般質問を何度も行い、様々な提案も行ってまいりました。ええ、執行部サイドにおかれましても手を変え品を変え、数々の対策を打ってこられたことと思えます。ええ、しかし、これといった決定打もないのも事実であり、ええ、定住増加のための対象者や事業をある程度、的を絞るべき時が来てはいないかと思われます。ええ、そこで、ええ、その視点から、ああ、次の項目について質問をさせていただきたいと思えます。ええ、まず最初に、ええ、様々な事業そして生活環境へのこの定住対策が、ああ、波及効果そ

して、ええ、こういった面での影響が出ているかについて、ええ、認識をおこが、お伺いいたしたいと思います。

●**原定住促進課長(原修)** 議長、番外、

●**議長(山中康樹)** 原定住促進課長。

●**原定住促進課長(原修)** ええ、定住支援コーディネーターによるここ2年間の定住者数72名というのはよく申している数字ですが、ああ、それ以外に波及効果という面から申しますと、あのう、保育料無料とか、医療費無料、奨学金制度など保護者や受益者から大変有りがたいという意見感想はいただいております。他にも集落振興対策事業であるとか、民間賃貸住宅建設支援事業では、ああ、その新築、増築における建築業者の需要があったものと考えます。地域おこし協力隊の導入では、入込客数の増加や矢上高校との共同作業、観光ビデオの制作やケーブルテレビ矢上高校支部の技術指導などで貢献いただいております。また医療、農林業等奨学金制度や矢上高校の教育振興、ふるさと教育などでUターンを促しているものと考えております。

●**辰田議員(辰田直久)** はい、議長。

●**議長(山中康樹)** 辰田議員。

●**辰田議員(辰田直久)** はい、あのう、邑南町になりまして今の定住促進課という、読んで名のごとく定住に対するまあ、強い意思表示と言いますか、対応をしていこうという課が生まれ、まあ、その上でいろいろな対応をされてきて、ええ、まだ数年でございまして、その経過、効果等につきましては、まだ検証段階であるかもしれませんが、まあ、今までのやってこられた中で、ええ、特に、ええ、ま、婚姻数の状況を調べさせていただいたところ、ええと、平成23年で46組、平成24年度で43組、25年度では、まあ、今、し、4、6月、今途中ですが、今2件ということでございまして、まあ、この数が人口規模に対して多いのか少ないかということは、まあ、私には、ああ、今分かりませんが、ただそれだけ世帯数が増え、ええ、それによるまた、ええ、子どもさんも増え、それだけまた定住していただければ、ああ、やはりそれは、ええ、プラス作用であると私は解しております。ま、しかしながら、ええ、今までこういった事業をされる段階で、まあ、あのう、男女の出会いの場事業とか町コンをやってみようとかいうような、ああ、計画も取り上げられましたが、まだ今だにやられていない点、ええ、ま、今回、ええ、新聞報道で三江線を活用した町村会の方で企画された、ええ、そういった男女出会いのイベントをされよります。まあ、これも以前うちの総務委員会の方で、ええ、広島の方へ視察調査に行った、まあ、仲介的にそういったイベントを催される業者さんが、ええ、今回も中心になって、ええ、やられて、ええ、いるようで、窓口になって、ま、そういった形ではいろんな意味で、ええ、このう、邑南町もそういった意味での言及というか、調査の波及効果がまあ、あったのではないかと思います。ま、それに加え、ええ、またこの度ウエスタンリーグが開催され、ええ、町内を問わず町外からもたくさんの方がやって来られました。これも私以前から言うておりますように、その町外の方がわざわざ呼び込むんじゃあなしに、自ら来られるようなときに、ええ、町のその定住施策とか、ええ、いろんな、今でいう食の事業とか、この町をアピールする絶好のチャンスであるのでということで、ええ、何回も今までチラシ等、それからそういったテントを張ってでの活動とかいうのをすべきではないかということをおっしゃってまいりましたが、ええ、今回もそういったものがみられなかったように聞いておりますが、言っていることとやっていることが違うようでは、ええ、大きなアドバルーンがしょぼんでしまうような気もいたしますが、その点はいかがと解しておられますでしょうか。

●**原定住促進課長(原修)** 番外、

●議長(山中康樹) 原定住促進課長。

●原定住促進課長(原修) あのう、三江線の婚活列車と申しますか、そういった婚活イベントの開催については、あのう、昨年総務常任委員会で、の視察に同行させていただいた経験を生かし、邑南町の方が全面的に企画して提案しているものでございます。それとあのう、ウエスタンリーグの開催における出品等PR等ですが、確かにあのう、ウエスタンにおいては、なかなか職員等も動員がありまして、なかなかそこに手が回らなかったというのも現実ではございますが、ああ、極力今後そうしたPRは考えていきたいと思えます。申し添えますが、婚活イベントに関しましては今年はこのう、かなり力を入れてやるということでも、邑南町独自の婚活イベントして7月20日にあのう、井原の稲積邸において、ええ、まあ、これはちょうど7月20日というのは、ああ、虫送り踊りもありますし、それを見学したり、ええ、出羽まつりで花火もありますので、それもプランの中に、スケジュールの中に入れて見学したりということで計画しており、また第2弾、第3弾と今年度開催する予定で計画しておりますのでご期待いただきたいと思います。

●辰田議員(辰田直久) はい、議長。

●議長(山中康樹) 辰田議員。

●辰田議員(辰田直久) まあ、あのう、昨年、ええ、テレビのナイティナインというまあ、婚活番組で一躍有名になった邑南町でございますが、ま、その後のやっぱりそういった意味での、それで終わって大きな花火を打ち上げて終わるんじゃないかに、その後やっぱりそういった形で、ええ、婚活そして定住促進に対して、さすがにええ、先進地だなあ、まあ、いろいろがんばられるなあという意味では、そういったものをタイムリーに打っていかれることも必要でありますし、あのう、職員が、ああ、足りないとかとかいうではなしに、これはもう何年も前からそういったことを私はいっておりますし、そこで職員が足りないとかいうことではなく、やはり町をアピールする意味ではそこに、ええ、職員は出て行っていただいて、ええ、やっていただくことがほんとうではないかと私は思いますので、ええ、今後はそういった、ええ、ウエスタンリーグ等のものにかかわらず、町外からこられるイベント、可能性のある催し物につきましてはそういった定住を促進する意味での邑南町の魅力をどんどん発信して、ええ、いただくべきではないかと思えます。ええ、次にあのう、Uターン、2番目の項目に入りますが、Uターン者優先の取り組みと将来展望ということで、Uターンに対する定住対策の取り組みを含め、ええ、今後の活動そして現在の様子についてお伺いをいたしたいと思います。

●原定住促進課長(原修) 番外、

●議長(山中康樹) 原定住促進課長。

●原定住促進課長(原修) Uターンの取り組みと将来展望はということですが、ええ、まあ、以前から申しておりますが、Uターン者やIターン者どちらかをこのう、優先させるといふふうには考えておりませんで、結果的にUターン者やIターン者を支援できるものであれば良いと考えております。今後についてですが、ま、これまでのようなあのう、経済的な支援策だけでなく、町民が一体となって子育てを進めるという意味でも、例えば3世代同居ではありませんが、こう違う世代の人達がそれぞれ子育てに関わることは、非常に有効なことであるので、そういった価値観を広める取り組みもできないかなあとは考えております。

●辰田議員(辰田直久) はい、議長。

●議長(山中康樹) 辰田議員。

●辰田議員(辰田直久) はい、まあ、私がここで敢えてまあ、Uターン者優先の取り組みと

言わしていただいたのは、あのう、確かにIターンでもUターンでもこの町内に定住していただくこと、たいへん大切ではありますが、あのう、どちらかと言えばUターンを主に、ええ、主眼に置いた対応されることの方がいろんな面の側面でプラスに働く効果がおおいと思うことがあるので、ええ、Uターン者を優先した定住対策をもっと打ち出すべきでは、今後も打ち出すべきではないかという考えの基に、ええ、質問をさせていただくわけですが、ええ、それによりますと、やっぱり以前から言っておりますが、Uターンの方はこちらにお家もあれば、家族もある可能性も高いですし、やはり、ええ、場所的にもいろんな、ああ、ええ、地理的にも分かるところが多い。そして、まあ、帰っていただくことによって家族がおれば、ええ、精神的な、ああ、安心にもつながりますし、ええ、畑、田んぼをやっていただくと、農地の保全にもつながります。そして、ええ、家を守っていただければ、家の老朽化も防止できると思います。ええ、そして、また同級生等がおられましたら、人的交流も盛んになると思いますし、ええ、それに含めた地域交流も、にもプラスに働くのではないかという観点があつて、まあ、こういった考えを持っておるわけですが、ええ、まあ、私も今回の選挙でその定住対策におか、おいてはやはりUターンをまず考えて、ええ、やるべきではないかという視点から、ええ、住宅対策そして、ええ、職場の確保、まあ、そういった面で、ええ、もっともっとUターン者に帰って、Uターン、あ、地元出身者の方に帰っていただくような対応を訴えていくということで、ええ、いろいろとお話をさせていただいたわけですが、ま、確かにあのう、今住宅も、おう、一部では空きもあるようですが、ええ、大体に総体的に埋まっており、ええ、民間の方も埋まっており、ええ、少し今からええ、結婚される方等のことを考えれば、ええ、不足気味な、ああ、地域も、おう、数カ所見られるように、ええ、私は思いますのが、ま、そういった意味では、ええ、家族用を一人で入っておられる方もあれば、そのひとり用のところに二人、三人とはいつとられる方の、もあるように、まあ、その点はいたしかたないことですが、やはり、ええ、いろんな面で、ええ、Iターン者等が結構今入って来ておられますので、まあ、そういった面での、まあ、供給不足も生じる、これはまあ、供給不足が生じるということは悪いことでなくて、良いことでもあります、ま、そういった面を考えますと、ええ、地元出身の方が帰って来ようというときに、やはり住宅もなければそういった職場も限られるし、ええ、職場もそういった面でな、ない、ええ、場合もあるわけです。ま、その点を解決したな、いかなければ、なかなかこういったUターン者が地元へ戻って来ていただくようなこともなかなかできないわけですが、ま、その点でええ、まあ、三つ目の質問と、おう、兼ね合っているわけですが、ま、本町はご承知のように中山間地域でありまして、ええ、いざいうときには、まあ、買い物、まあ、病院等でも場合によっては、ええ、浜田方面、広島方面と1時間以内でいかれるところありますので、出て行かれる方も多いわけですが、ただそういった定住の問題になりますと、都会に出ておられる若い方、そしてまた、ええ、65歳とは限りませんが、定年を迎えて、ええ、今またこのまま都会で過ごそうか、それとも家や親を残しておるから、ええ、帰ろうかなと迷っておられる方もあると思います。まあ、そういった面で、ええ、若い方から、そういった65歳を過ぎられて仕事一応終えられた方までの世代を別に、に、考えた時、そしてまた、ええ、定住対策のいろいろな事業を、で、個別に考えた場合、ええ、の、定住対策としての方向性、そういった面でのお考えを担当課長におきかい、お聞きいたしたいと思います。

- 原定住促進課長(原修) 議長、番外、
- 議長(山中康樹) 原定住促進課長。

●**原定住促進課長(原修)** 本町の環境とは、先ほど申されたとおり、少子高齢化の進んだ中山間地の過疎地邑南町と解しますが、この邑南町における打開策として、ええ、子育て支援を進め、若者の定住促進を図るため、日本一の子育て村構想を立ち上げたものでございます。世代別に申しますと、まあ、保育料の無料化とか医療費無料化というのは文字通り、あのう、子育て世代に向けての支援策ではありますが、矢上高校支援とか奨学金制度など高校生や大学生にUターンを促す施策であり、郷土愛を育むふるさと教育であるとも言えます。事業別で申しますと、定住支援コーディネーターを配置しまして、年間150件から160件の問い合わせに対応しており、きめ細かいケアをしております。生活環境においても、上下水道整備やケーブルテレビによる情報推進、町営住宅建設などインフラ整備に力を入れています。加えて、役場の各課各部署において全ての施策は定住に繋がるとの認識で、職員一同、それぞれがそれぞれの部署で、施策に取り組んでいるところであります。

●**辰田議員(辰田直久)** はい、議長。

●**議長(山中康樹)** 辰田議員。

●**辰田議員(辰田直久)** はい、まあ、ここでちょっと視点を変えて、高齢者対策といった面からその定住対策との関連をお聞きしたいとは思いますが、あのう、まあ、先ほど聞きましたような定年退職者と言いますか、まあ、熟年者のUターンが、ええ、進めばまあ、あのう、親を見捨てるような子どもさんはいないと思いますんで、心配だったらやっぱり帰って来たいという気持ち、ええ、絶対どっかにあると思うんですが、それを促進する意味での、やっぱり、ええ、行政の呼び水的なもの、そしてまた帰っていただくことによって、ええ、ひとり暮らし等の高齢者に対するそういった、ええ、Uターンの促進はなに、なん、何に期待されるかということがあると思うわけです。ま、考えれば、ええ、精神的に安定もつながる、そしてまたええ、施設に預けるべき所を在宅で、ええ、家族がみるということにもつながるでしょうし、ええ、いろんな面で、ええ、プラスに働いてくると思いますが、その点でまあ、ええ、福祉課長でも保健課長でもいいんですが、そういったUターンを促進することによって、高齢者にどういった面でプラスに働く、あのう、期待があると個人で考えられるか、でもよろしゅうございますので、ええ、見解をお聞きできればと思います。

●**飛弾福祉課長(飛弾智徳)** 議長、番外。

●**議長(山中康樹)** 飛弾福祉課長。

●**飛弾福祉課長(飛弾智徳)** ええ、議員ご質問の、ええ、ま、65歳以上とう、帰って来られる、ま、促進策ということでございますが、あのう、そういう考えをお持ちなられた方につきましては、ええ、環境の面とか金銭の面とか、ええ、福祉課の中にあのう、地域包括支援センターあるいは福祉事務所等ございますので、こちらへいくらでも、なん、どんな心配事でも相談に来ていただいて、それから、ええ、個々にそういった、どういった対策を講じればいいのかということ、あのう、相談によって進めていけるように体制を整えております。それから、ええ、ひとり暮らしの、まあ、あのう、方に、そういうUターンによって何に期待されるかということでございますが、あのう、確かに介護する方がいらっしゃらなければ、施設入所というのもしやむを得ない場合があるかと思っておりますけれども、あのう、こういった子どもさん方がUターンされるということに関しては、あのう、まあ、ほんと、この上ない、人口増にもつながりますし、この上ないことだとおも、思っております。ええ、ま、あの高齢者の方もそれによってたいへん安心な生活ができると思っております。ええ、町としてもですね、あのう、住み慣れた地域で、ええ、安心して暮らせるという、あのう、ことをまあ、あのう、中心に施策を進

めておりますので、あのう、こういう面から、こういう面にとっても高齢者の方に活力が出るということは、ええ、ま、認知症予防にもつながりますし、それから閉じこもりから外へ出るような機会も増えると思いますし、たいへんいい効果が出てくるのではないかと思います。ま、そういう面も含めてですね、あのう、町としてはあのう、ちい、地域包括支援センターを中心に支援をしていければというふうに考えております。

●辰田議員(辰田直久) 議長。

●議長(山中康樹) 辰田議員。

●辰田議員(辰田直久) はい、まあ、あのう、ま、この前、ええ、選挙期間中に各地域を回らしていただいて、ええ、まあ、確かに高齢者が多いので、ええ、まあ、駆け寄って握手をさせていただいて、お願いします、お願いしますとこちらが回るんですが、逆に、あのう、高齢者の方からお願いしますけえないうて、逆に手を握り返されるんですよ、それはやっぱりひとり暮らし、ほいで家を見ますと、ALSOKさんという、まあ、そういった警備会社のシールが貼ってあるということは、あのう、そういったいざなんかあったときに連絡がいくような対応がしてあるというようなことだと、まあ、私は解したわけですが、ま、そういった面では、ええ、やはり、ええ、帰っていただく家があり、ええ、見守るべき家族がいるような方にぜひ、ええ、帰っていただくような呼び水といえますか、その町としてのなんとかの手立て、それが私が最初に、冒頭で申しましたある程度、的を絞っていくところもあるのではないかと、まあ、一部分とだけ思っていたらと思います。若い方はやはり仕事がないと戻れ戻れと言ってもなかなか難しい点もあります。それにはやはり職場の確保をまずすることも大切ですし、まあ、それに伴う支援もいると思いますが、まあ、そういったことを総合的に考えていっていただくことも大切じゃあないかと思います。今保健、ああ、福祉課長も言われましたが、まあ、そういった面で高齢者に対して精神的にも安心を与えそしてまたそれが、ええ、介護予防にもつながればいろんな意味で波及効果はぜん、町全体で、ええ、あると思います。ええ、そしてまた定住対策には帰すばかりではなく、今おられる方を町外へ転出させないようにするような手立ても必要ではないかと思います。ええ、そういった意味では、ええ、まあ、今通勤支援とか、そいからまあ、一時的ではあってはいけないんですが、その住宅、ああ、定住支援のまあ、事業等もたくさんあるわけですが、まあ、生活のほとんどを町内で過ごしていただく、職場も町内であっていたことが、まあ、ベターなんです、そういった形になれば地域活動や、ああ、まあ、ええ、町のいろんな意味での貢献につながっていくことになりゃあしないかと思います。ま、ただ私もここで、ええ、今まで、ええ、そういった検証や追求ばかりしとってんでは、なあ、そういうことをいうなら、ほんならどうすればいいんで、あなた具体的に言いなさいと言われる方も中にはおられるかも知れないわけですが、これといったものがないのも事実ですが、そういった意味では的を、そういったものを絞ってやってみるというのも大切ですし、まあ、ここで一つ、まあ、提案と言いますか、これは町長にお伺いをしたいと思いますが、ま、先ほどの日野原議員の質問でもちょっと出たんですが、あのう、下川、北海道の下川町、これ私ちょうどテレビをつけましたら最初から最後まで私はみしていただいたんですが、まあ、日野原議員さんはエネルギーの関係で言われました。私はこれは定住の観点から言わせていただきが、ええと、下川町いうのは、ええ、先ほどもありましたように森林に囲まれた町です。そしてええ、その財産の森林を成長産業に、ええ、若者の雇用増加で復活した町というタイトルで、ええ、売り出しておりました。ほいで、森林組合等に入りたい人が今30人待ちでまっとられるそうです。こりゃあまあほとんどIターンだそうです。ええ、ほいで、ここの売りはやはり、ええ、先ほど話があったように

エネルギー対策で、ええ、木質バイオマスを中心に、ええ、電力の削減で、ええ、財政再建をされて、借入れを20億ぐらい返されたそうです。そして、ええ、まあ、ここと同じように子育て支援策も中学校まで医療費無料、そいで給食費を1年間で、1万円減額され、そして幼児のいる家庭に3千円の地元の商店の商品券を配られているよう、というような形をされておるようでございます。まあ、あのう、町の経済発展に伴い、まあ、職場の確保がこれは可能になったのではないかと私は定住者が増えているというのは思うわけです。その木もエネルギーだけでなく、ええ、アロマオイルを作ったりとか、ええ、木屑をまた枕のそば殻に、の代わりに入れたりとかいろいろな物のアイデアを若い人が出して、それに夢を抱いてIターンの方がどんどん入って来られるというような効果もあるということを知りました。ほいで、定住対策のためのそういった、ああ、エネルギー対策ではなかったようですが、結果的に人口増加への、術となって来ているように思いました。ええ、ま、お金を、を、追い求めているよりも夢を追い求めて、ええ、特にIターン者が定住を希望されて、ええ、いるような話も中には出ておりましたが、あのう、定住対策ではないけども、おう、そこから定住が生まれるようなサイカ、クルが出現したという点から考えれば、やっぱり、ええ、昨日もあったように町民所得の向上も大切でしょうが、あのう、町の税収が増えるような対策と傾向が見られれば、やっぱり定住というのはもう自然に増加、気付いたら増加していたというような現象も確かに、ええ、無いと私は言えないと思います。そういった意味では、まあ、本町の今の中心的な事業と言え、バツと思えば今、子育ての支援も、まあ、もちろんですが、今ええ、食に関する事業で、ええ、いろんな全町民を取り込んでやろうというようなことを考えておられますので、それが起爆剤となって今のような、下川町的な発想になって定住やら仕事が増えてできれば大正解だと思うわけですが、ま、その点との、まあ、ええ、この事業性は少しニュアンスも違いますが、その点と加味しながら町長の考えはどういった思いをされているかお聞きしたいと思います。

●石橋町長(石橋良治) はい、議長、番外。

●議長(山中康樹) 石橋町長。

●石橋町長(石橋良治) あのう、下川町の例を言われた、私は見てないんで、まあ、今お話されて、ええ、多少分かったんですが、まあ、やはり下川町の一番の資源である森林を最大限に生かして、それをエネルギーというところから、こう仕事も増やしていったということの成功例だというふうにも、感じました。で、まあ、あのう、林業ということについてもですね、我々は一生懸命頑張っているかなきゃならんという思いを、先ほどの質問でもやったわけですが、これはあのう、ま、農業でも林業でもそうですが、基本的にやっぱり国の事業量と非常にまあ、かかわってくることで、特に林業の場合問題になったのは非常にまあ、国の事業量というのが非常にもう波があったり、どっちかいうたら、ガンと減らされてきたのが実態だろうと思います。それがやっここへ来てこう少しく安定、上向いてきたのかなと、だからやっぱり森林組合が人を雇うんでも事業量がもう、とにかく何年も先確保されていないと安心した雇用というのは採れませんよっというのが、くにのちゃ、組合長さんのお考えですから、それを我々は一生懸命国に訴えているわけですね。で、その中であのう、ま、うちはまあ、こ、これだけでいくというのは、そのなかなか言いづらいんですけども、取りあえず資源と考えるならばいわゆる農業し、農業に勝る資源それから先ほど言った林業も含めます。ええ、そして言うならば人づくりですね、やっぱりこれが相まってやっぱりいろいろ定住に結びついていかなきゃならん、いうふうにも、思っているわけです。で、あのう、ま、現実問題じゃあ効果はどうかというところもあるわけですが、合併当時はですね、

いわゆる外へ出る人が当然上回ってるわけです。マイナス160人ぐらい、転出と転入の差が。それがですね、だんだん縮まってきました、今。で、今直近の平成24年度の数字ではマイナス14人となりました。160人出ておった、ああ、おったというかですね、これ、差ですから、もっと出る人多かったんですが、入る人がおったわけですから、その差が縮まってきた。その差のマイナス160人が今はマイナス14人まできてるわけです。これはこうその縮め方っていうのは毎年こうだんだんだんだん縮まっています。で、おそらく、この25年度をみてみ、注目しとるんですけども、あのう、4月は予想以上に入ってきてます。82入ってきている。出ている方はむしろ下がってきているというような実態。ですから5月はまあ、トントンぐらい。で、問題は3月にじゃあどれだけ出るかっていうことですね。それはまあ、我々頑張っていかなきゃいけないけども、この差を保っていけば私は旧町村でも達成できなかった、もちろん合併でも達成できなかった社会増に転じてくるのではないかなあと、これは県内でもない、もしそうなれば県内でもない実態。おそらく松江でも転出がおいしいと私は、まあ、思っております。で、これはあのう、だからこの、その下川町も例もありますけれども、参考にはなりますが、やっぱりその市町のあったようなやっぱり資源を最大限生かして、ええ、ふる、フル活動していくと言うことが私は必要なのかなというふうにまあ、思っておりますので、ええ、またいろいろとご指導いただきたいなというに思います。で、冒頭おっしゃいました住宅の問題、たいへん大事な問題です。これぜひ又ご指導いただきたいなというに思っております。

●辰田議員(辰田直久) 議長。

●議長(山中康樹) 辰田議員。

●辰田議員(辰田直久) はい、まああのう、これはまあ、下川町の例であって、まあ、うちらも森林はおいしいわけですが、なかなかそういった条件が整わないと同じようなことはできないと思います。ただ、今、本町としてはその食の事業で、ええ、いろいろと頑張ろうということ言われておりますので、その点が定住につながっていくことになれば、ああ、たいへんいい事業であり、またええ、定住につながったことによる波及効果が又出てくると思いますので、まあ、その点いろいろと検証しながら、小さなそういった定住だ、の主眼とした事業におかれましても、やっぱり、ええ、時々検証しながら手を変え品を変えやっただくことが、ひとりでもの定住者そしてまた多くものUターン者の帰郷につながるのではないかと思いますので、ええ、よろしく願いをしておきたいと思います。ええ、次の2番目の質問に入らせていただきたいと思います。ええ、環境整備と安全対策についてでございますが、合併後、様々な施設が整備され、耐震化につましましてはほとんどの施設で対応がされてきました。ええ、しかし同じ趣旨の建物でありながら、建築年度の違いから、安全面や機能面でかなりの格差があるものもあり、計画的に整備をする必要もあると考えます。ええ、また町民が生活していく上で周辺の安全や環境面での整備が行わなければならないこともありますが、ええ、個人や地域が積極的に取り組めると共に、そこから生まれるはず、派生効果がええ、出るよう配慮すべき点もあると考えます。ええ、そこで施設整備や土木工事の、へ、への町が取り組む上での方針を伺いたいと思います。ええ、まず最初に、ええ、危機管理、ええ、環境改善、そして地域活性につながる主点から、ああ、自治会館、学校関連施設、公民館、体育施設などの整備計画についてお伺いをいたしたいと思います。

●原定住促進課長(原修) 番外。

●議長(山中康樹) 原定住促進課長。

●原定住促進課長(原修) まず最初に自治会館について申しますと、まあ、避難所に指定さ

れている自治会館もあるわけですが、整備策として自治会館修繕、修繕費補助金というのがありまして、ええ、それで修繕に対応しております。過去5年間で、ええ、13件の修繕が実施されまして、補助金を交付しておりますが、建築後30年以上経過している建物も多く、今後もまたさらに改善要望が出てくると予想、予想はしております。

●田中学校教育課長(田中節也) 番外。

●議長(山中康樹) 田中学校教育課長。

●田中学校教育課長(田中節也) ええ、学校関連施設の整備計画についてお答えしたいと思いますけれども、あのう、学校施設につきましての、まあ、まず、耐震関連整備についてでございますけれども、あのう、今年度ですね、ええ、予定しております瑞穂小学校の体育館の改築、それと矢上小学校の体育館の解体。まあ、来年度矢上小学校の体育館につきましては土地整備を計画しておりますけれども、よって、まあ、耐震関連については完了すると、ことになっております。ほいからあのう、今後のその他の学校関係施設の整備につきましてですけども、まあ、あのう、毎年年度初めには教育委員さんと一緒にですね、あのう、学校訪問をして実状を把握しておりますし、予算要求の際には学校からも改善要望がだされております。これををまあ、優先度を検討しながらですね、ええ、年次的に整備を図っていこうと計画しております。以上でございます。

●能美生涯学習課長(能美恭志) 議長、番外。

●議長(山中康樹) 能美生涯学習課長。

●能美生涯学習課長(能美恭志) ええ、生涯学習施設についてお答えをいたします。ええ、生涯学習の推進する拠点であります公民館や体育施設におきましては、住民の皆様方に気持ち良く使っていただだけ、だけるように計画的に施設管理を行っております。耐震対策におきましては、平成24年度に井原公民館耐震補強工事を行い、今年度は先ごろ中野体育館の耐震補強工事を発注いたしました。ええ、住民の皆さまに安心してご利用いただけるよう優先度を把握しながら計画的に社会教育施設の整備を行ってまいりたいと思います。また、ええ、利用者の皆さんには施設の使用後は、清掃して帰っていただくようお願いしております。ええ、生涯学習課といたしましても、定期的に環境整備と危機管理のチェックを行い、除草作業等も年間計画にもとづき作業をしているところでございます。

●辰田議員(辰田直久) 議長。

●議長(山中康樹) 辰田議員。

●辰田議員(辰田直久) はい、まあ、あのう、ここへまあ、まあ、施設的には四つ、大体関連施設を挙げさしていただいたんですが、まあ、あのう、自治会館等はまあ、かなりそのう、地域によって、ええ、けえ、えの、経年格差があって、まあ、避難所として使われるところもあるわけですが、まあ、これが、ええ、トイレ等を見ますと、ちょっとまだ現在のしゅう、慣習上、不具合な自治会館もありますし、いざ避難したときのそういったプライバシーとかいろんな精神的な問題が発生しないかという危惧をする点もあります。そして、ええ、公民館は特に人が多く集まる場所でもありますし、地域の拠点であります。ええ、まちづくりにおいても中心的な存在でございますので、ま、機能的にも備品も充実し、非常時の対応もしておくべきところでございますので、やはり防犯的な観点からも今後は、ええ、やっぱり防犯カメラ等の設置も一番先にすべき所ではないかと思えます。ま、体育館につきましては、ええ、ま、そういった耐震性はまあ、もちろんのことなんですが、あのう、よその方では床材が、まあ、めくれあがったかどうかって、バレーボールでスライディングしたときに、お腹にその板の片が入ってしまったとか、そいからまあ、あのう、雨漏りの関係で滑ってけがをしたとかいうようなこ

とも事例もあるようでございますが、その点の点検整備も欠かさずやっていただくことが必要ではないかと思えます。ええ、そしてまあ、ま、特に私も以前から聞いておりますし、言っておる中で、ええ、学校関連施設の中で給食センターのことについてちょっとお伺いしたいと思えますが、このう、給食センター、ええ、石見中学校の横にある西とそれとええ、元気館のところにあります東の給食センターありますが、まあ、これ、ええ、やっぱり建築年度の違いもあるわけですが、まあ、あのう、この西の場合、更衣室とかは狭いですし、まあ、トイレも男女共用そしてまた、ええ、待遇面でもそのう、スポットクーラーだけでやっておられる。特に今は、ええ、梅雨時ですので、食中毒防止のために熱を使われる、ええ、献立が多いと思えますが、そういった面で汗だくでやられる女子の職員さんを窓の外からですが、拝見するんですが、まあ、これもなんとか対応されませんと衛生面でもありますし、待遇面についても格差があると思えます。ま、そういった面で、ええ、改善される計画はないかどうか担当課長にお伺いしたいと思えます。

●田中学校教育課長(田中節也) 番外。

●議長(山中康樹) 田中学校教育課長。

●田中学校教育課長(田中節也) ええ、西給食センターの整備計画でございますけども、実状につきましては議員おっしゃる、おっしゃいましたことは把握しておりますですね、ええ、西給食センターについては、ええ、トイレが男女共同であるという実態もございます。それから更衣室も一つしかないというような状況でございますので、この整備についてはですね、ええ、必要性を感じておりますので、今後、ああ、予算措置についてですね、努力していきたいと思えます。それからあのう、冷房についてですけども、これあのう、これも現状把握しておりますですね、ええ、まあ、議員ご承知かと思えますけども西給食センターの場合はあのう、施設の構造がですね、ええ、ちょうり、調理場が全部一体型になつとります。いわゆるセクション、セクションに区切っていない部分がございますし、天井が非常に高い状態でございます。で、冷房機を、機器をですね、設置して効果的な冷房というのはなかなか今の構造ではですね、難しいというふうに、いわゆる設備会社からの情報も得ております。それで、そういった対応でまあ、苦肉の策でありますけども、昨年度はですね、ええ、直射日光が、西日が当たる部分がございますので、そこにあのう、いわゆる遮断シールを窓に貼りましてですね、幾分か直射の影響は緩和させていただいたという経緯もございます。ええ、引き続きですね、ええ、状況を把握しながらですね、整備に努力したいと思えます。

●辰田議員(辰田直久) 議長。

●議長(山中康樹) 辰田議員。

●辰田議員(辰田直久) まあ、そういった環境改善も主ですが、まあ、以前石見町時代に、ええ、食中毒が発生して、たいへんな、ああ、皆に心配をかけた事例もあるわけなので、まずそういったものを管理していただくことが、まあ、第一の要望でもあるんですが、まあ、そういった面では確かに衛生面で汗が料理に落ちてはいけないというような気を使ってやられる職員さんもあれば、いろんな意味でそのう、気温が高ければそういった食中毒の発生も高くなるので、あのう、構造上の問題だったら建て替えることもできるわけです。そういった面を全部考えていかないと、ええ、子どもさんが食べられる給食に、に、そういった不具合があってもいけませんので、今後はその点を中心にそして改善を、全体を改善していくような計画を練り直していただきたいと、ここで要望をしておきたいと思えます。ええ、まあ、時間の関係上次に移らしていただきますが、あのう、今度は土木、インフラ整備関係になりますが、あのう、まあ、あのう、大きな何千万と

かというような、あのう、工事じゃあなく、ええ、家庭といいますか、一般のおうちでちょっと溝とか道路の補修をしたいがというような小さな工事もあると思います。そういった、ああ、面が、ああ、出たときに、やはりあの民間の工事会社も仕事がなかなか無く、みんな、ああ、あのう、民間といいますか、まあ、土木会社、そいで逆に民間工事、みな今の言ったような、ああ、方の小さな工事でもあればなあというようなことも聞くわけです。ま、そういった面で、ええ、町もそういった呼び水と言いますか、ま、し、あのう、ある程度の支援がなされる事業も、何%とかというような、水路とかああいったものに対する事業はあるわけですが、そういったもんじゃあなしに、ええ、民間工事会社も喜ぶ、そいで自分ともやってみようかなと悩んだところへ、そういった呼び水があることによって、ええ、工事をして整備をしていただくような形がとれたらいいと思いますが、そういった面で、ええ、建設課の方ではどういった考えをもっとられるかお聞きしたいと思います。

●森上建設課長(森上寿) 議長、番外

●議長(山中康樹) 森上建設課長

●森上建設課長(森上寿) 議員質問の、あのう、民間とのですね、いろいろな工事の関係についてのご質問でございますが、まずあのう、まあ、大きな工事は別にしまして、あのう、町の道路、まあ、河川、水路についてのですね、維持管理についてのちょっとご説明をさせていただきます。えと、まず道路につきましては、まあ、道路の維持管理としまして、舗装修繕、落石対策、そっこうせい、側溝修繕、路肩修繕等があります。あのう、現場でですね、職員が道路パトロール等ですね、あのう、まあ、したときに、したときに、まあ、補修、修繕等の箇所を発見しましたり、まあ、住民の方から通報をいただきましたら、まあ、あのう、応急的には職員が対応してですね、そのう、大きな工事につきましては、まあ、工事発注をして、まあ、修繕対策等、まあ、していつているところでございます。まあ、あのう、河川につきましては、あのう、維持管理につきましては、まあ、護岸の、まあ、維持補修、まあ、堤防等のじよせ、除草等があるわけでございますが、まあ、あのう、基本的に河川のいろいろかい、補修、かいじょう、あのう、改良等の事業はもうございませんので、あのう、災害復旧等で、まあ、対応しとるというじよ、とこでございます。まあ、河川の除草等につきましては、あのう、地域の方々にお世話になりながら、まあ、管理をしていただいとるという状況でございます。あのう、水路につきましてのことでございますが、農業用排水路につきましては、まあ、基本的にまあ、あのう、水利関係者の方々が維持管理を行っていくということとしておりまして、まあ、災害等が起きましたら、災害事業等で対応してるというところでございます。あのう、最終的にですね、あのう、まあ、議員のご質問のですね、民間とうじの、まあ、工事等の関連についてでございますが、あのう、まあ、あのう、町がそういう工事発注するときに、維持工事等の関連でですね、ま、そういう関連、そのう、民間等の方々の、まあ、その関連事業がありましてもですね、今の所は、まあ、町の維持管理、ま、民間は民間という形です、ちょっとまあ、今後まあ、いろいろ検討させていただきたいと思いますが、まあ、そういう状況で、まあ、ど、道路、河川、水路等の管理を行っているところでございます。

●辰田議員(辰田直久) はい、議長。

●議長(山中康樹) 辰田議員。

●辰田議員(辰田直久) はい、あのう、まあ、どちらみっち、あのう、小さなまあ、整備につきましては、地域のマンパワーが必要になってくると思います。その点では、ええ、町道の凹凸のあるようなとこの整備につきましては、まあ、砂利とかまさ土とかセメン

ト、ほいから合材とか、草刈りにつきましては、まあ、チップソーぐらいの手当があればまたやっていただく手立てに、呼び水にもなりやあしないかと思ひます。まあ、これは今後の検討課題で、まあ、予算化もされないところといったものにはなかなか手がつけられないと思ひますが、ええ、そういった方向でやっていただくことが、やはりいろんな意味でのみんなで町を築く、そいからまた、ええ、逆にお願ひをしたい点も行政側にもあるんじゃないかと思ひます。そいで民間の工事もええ、隣に重機が来たんなら、うちもついでだけ、ええ、重機をまた回送してもらおうよならついでにやってもらおうとかいうこともあるかも知れませんで、そういった形で、ええ、発注者も喜ぶが、受けた方も当てにしなかつた仕事も入つて、ええ、プラスになつたなあというような形で、ええ、環境整備をしていくようなために、町も方もそういった支援やアドバイスを与えてあげることも必要ではないかと思ひますので、またその点をご検討いただければと思ひます。ええ、あと10分になりましたが、ええ、三つ目最後の質問です。ま、課外における生徒の状況についてでございます。ええ、最近住民の皆さんから聞いたり、私の目で確認したことの中に生徒さんの学校以外での場所での態度や地域参加、ああ、地域の行事参加に変化が見られているように思ひます。ええ、学校や教育委員会、保護者などの把握状況や対応を含め、ええ、子育て先進地の町にふさわしい方向性を確認しておくべきと思ひ、次の点についてお伺ひをしたいと思ひます。ええ、通学の状況、手段、ええ、態度、安全対策などですが、ええ、そういったものにおける学校や教育委員会の所見と指導状況についてお伺ひをしたいと思ひます。

●田中学校教育課長(田中節也) 番外。

●議長(山中康樹) 田中学校教育課長。

●田中学校教育課長(田中節也) ええ、通学における学校や教育委員会の所見や指導状況ということでござんすけど、ですけども、あのう、通学手段の現状といたしましては、ええ、徒歩それから自転車、とまあ、バス通学ということになっております。ええ、これ、この中でですね、ええ、昨年のはあのう、通学路の一斉点検というのを行いましてですね、これあのう、県の、県央県土整備事務所それと川本警察署と町とがいし、一緒になって、ええ、各学校から出されました点検箇所について、一斉点検さしてもらつて、まあ、改善策の検討や実際対策を昨年度でしていただいたもおお、ものもございませう。ほいからあのう、通学路におきましてはですね、ええ、学校での交通安全教育のことをやっておりますですね、交通ルールの順守、これはもちろんのことですけども、登下校の際のあいさつの励行、それから集団登下校での規律などの指導、こういったものを総合的に指導している状況でございます。

●辰田議員(辰田直久) はい、議長。

●議長(山中康樹) 辰田議員。

●辰田議員(辰田直久) はい、ええと、まあ、交通安全については一応まあ、誰も交通ルールを守り、ええ、やっていかなければいけないんですが、ええ、まあ、今手段の中に、ええ、徒歩、自転車、バスということでありましたが、ええ、自家用車という通学手段はあるんですか、ないんですか。

●田中学校教育課長(田中節也) 番外。

●議長(山中康樹) 田中学校教育課長。

●田中学校教育課長(田中節也) あのう、手段としてはあると思ひますけども、これはいわゆる学校側が、として指定した通学手段ということではなしに、保護者の方がいわゆる自主的に送り迎えをする手段として、ええ、やつとられると思つとります。

●辰田議員(辰田直久) はい、議長。

●議長(山中康樹) 辰田議員。

●辰田議員(辰田直久) はい、そういたしますとまあ、そういった乗用車で通学することもまあ、そりゃあ確かに身体の不調とか天候の関係もあると思うんですが、まあ、これをあまり、ええ、まあ、認めることになりまして、あまり私は良くないような気がいたします。ええ、何故かと言いますと、ええ、ま、中には送っていただけても、ても送っていただけないような事情の子どもさんもあり、雨の中を自転車で、走って遅刻されるちゅうが、ああ、中学生さんもおられれば、ええ、逆にギリギリに出て、ええ、間に合う、乗用車に乗って間に合う生徒さんもおられると思うわけで、そしてまた、ええ、保護者さんの中には学校の敷地内の昇降口の近くまで車で送られて、雨に濡れないような対応をされ、そしてまた次、車がまっとなるなあと思えばまたその車が出るのを待って、また入られるような状況を見ることがありました。まあ、こうなりますと学校の敷地内に、まあ、そういった一般車両といいますか、そういうことが、入ることもなりますし、そういったことを指導されているのか、見られてないのか、学校側にも。まあ、そういったことを考えて保護者の方もそういった自粛的なものを考えていかないとあいさつはできるがというようなことをよく聞きますが、まあ、自転車とか歩く、徒歩の場合は見た人にあいさつができますが、車で送ってもらう生徒さんが挨拶をはたして窓からみえる町民の方にするでしょうか。ま、そういったこともやっぱり踏まえれば、ええ、そういった面にも学校内だけでなく、その点にも注意を払い、ええ、担当部署でちゃんと保護者も含めた対応をされる必要があるじゃあないかと思います。まあ、もちろん先ほども言いましたように身体の具合や天候の時は致し方ないにしても、遅刻しそうだから送っていこうというようなことはもう遅刻扱いと同様な対応をされても、私はよいんではないかと思っております。まあ、そういったことも踏まえ、そういった学校、保護者、地域との連携を密にしていかなければ、その学校外でのいろんな子どもさんの状況を把握できてないような気がするわけです。ま、そこで一つの例として、ええ、まあ、生徒さんの減少による学校の、まあ、統合等がございました。そういったしますと、その地域、地域で行事がありますが、元々のまあ、行事は日にちが違うわけで、片方の地域の子どものさんには、ああ、関係ないが、片方の子どもさんの行事であるから、学校を、まあ、早く終えようとかと言って、参加をするように促して来られてきておられると思いますが、まあ、ええ、その点の対応が、ええ、どうなっているか、それとまあ、災害とか、こう、ええと、まあ、犯罪のような事件の発生時の対応で、ま、担当課と地域の結びつき、そして、学校と家族はすぐ連絡は取れると思うんですが、まあ、そういったものを地域に知らせる方策とか、ああ、連絡と行動のあり方ですね、そういったものはどう考えておられるか、併せてお聞きしたいと思います。

●田中学校教育課長(田中節也) 番外。

●議長(山中康樹) 田中学校教育課長。

●田中学校教育課長(田中節也) あのう、地域の行事への参加ですけども、これはあのう、ええ、日和小学校が廃校になって、いわゆる今矢上小学校と石見東小学校に分かれて通学しているケースの場合だと思うんですけども、あのう、なるべくですね、地元の行事には参加できるように学校の方で対応していただいとります。それから連絡体制でございますけども、まあ、あのう、異常気象でありますとか、そういった部分がありましたら、予測できた場合はですね、ええ、それぞれ学校からですね、連絡体制、ええ、いわゆる緊急避難連絡体制がございまして、こういったもので、ええ、お知らせをすると共に、まあ、ええ、防災行政無線で、ええ、ええ、保護者の方、地域の方にはお知らせするというようなこともあります。それからまあ、そういった情報がありましたらです

ね、ええ、いわゆる子ども安全センターの各支部もございますので、これらがあのう、登下校の際にはですね、ええ、見守り活動をしていただいておりますので、そのへん、あのう、積極的な活動をしていただいておりますので、そこらも対応していただいとる部分であると思います。

●辰田議員(辰田直久) はい、議長。

●議長(山中康樹) 辰田議員。

●辰田議員(辰田直久) まあ、だいたい時間もきてるようでございますが、あのう、ま、通学の状況をみますと自転車の場合は2列、まあ、歩く場合は3列ぐらいで、ええ、通学されている生徒さんをよく見ます。まあ、あのう、町道、本町のじょうじょ、あんまり、町道はあんまりひらく、広くございせんし、ええ、歩道が確保されているところも少ないわけでございます。いざ、やはり事故になった場合は車の運転者の方がやはり過失が多くなる状況の中で、運転士さんもええ、最近そういった面が乱れているのではないかとということをお聞きしておりますので、ええ、また学校の方側にもやはり注意喚起をしていただくようお願いをしておきたいと思っております。ええ、そしてあのう、その地域との連携の関係ですが、まあ、あのう、私が思ったのはあのう、今石見東小学校でまあ、中野と井原、分かれて、まあ、そういった同じ学校に通いながら、ええ、片方は、ええ、地域の行事太鼓のまあ、こんど、今度は祇園祭というのがありますが、そういった面でのまあ、片やそういった方に行く、片やいかない生徒さんがおられる場合の、時のまあ、対応等はどういうふうにされておるのかなとまあ、思ったんですが、まあ、そういつてまたたいしたことではないのでまたお聞きをいたしますが、ええ、そうではなしに、ええ、今後はやはり地域にどんどん子どもさんが出ていただいて、この高齢者がおいしい町でございまして、ええ、いろんな行事を通じてそういった高齢者に対するボランティア精神とか、そいから高齢者福祉に対する関心をぜひとも持っていただけるような参加の仕方を地域の方と相談をしながら、ええ、カリキュラム的なものを社会勉強としてやっていただくようなことも考えておくべきではないかと思ひまして、そういった連携を密にすることによって、いろんな意味での生活態度からそういった自分の勉強を今後の将来のこととかへつながっていくようなやっぱり教育をされること、この子育ての町のやっぱり、ええ、基本方針であるべきではないかと思ひますので、是非ともその点も再検討の上、ええ、施策を進めていただければと思ひます。ちょうど時間となりましたので、このへんで終わらしていただきます。ありがとうございました。

●議長(山中康樹) ええ、先ほどの辰田議員の、あのう、質問に対しまして、ええ、答弁の方が補足をしたいということでございまして、ええ、許可をいたしますので、土居教育長。

●土居教育長(土居達也) ええ、先ほどのあのう、辰田議員のあのう、給食センターの調理上で、汗が落ちるんじゃないかということで、発言され、あのう、質問された意図とは違って、傍聴されている方、あのう、視聴されている方が、まあ、誤解されてはいけないので、あのう、まあ、調理人の立場の、さんのことを考えまして、あのう、汗はたいへんかかれるので、途中で着替えされたり、適切な処理を、あのう、していただいております。たぶんあのう、そういったところであのう、不注意で入る場合もあると思ひますけども、ええ、そういう部分で、ええ、きちんとした指導もしておりますので、あのう、きいとられる方ちょっと誤解を受けられたん、場合もあるかと思ひて、ええ、補助で説明をさしていただきました。

●議長(山中康樹) ええ、以上で辰田議員の一般質問は終了いたしました。ここで休憩に入らせていただきます。再開は午後1時15分とさせていただきます。

—— 午前 11 時 43 分 休憩 ——

—— 午後 1 時 15 分 再開 ——

●議長(山中康樹) 再開をいたします。続きまして通告順位第7号漆谷議員登壇をお願いいたします。

●漆谷議員(漆谷光夫) 議長。

●議長(山中康樹) 7番、漆谷議員。

●漆谷議員(漆谷光夫) はい、7番議員の漆谷光夫でございます。ええ、私は今、はし、一般質問の初めての挑戦でございます。今一番感じとることは、大きな大きな責任の重さでございます。ええ、私は今この気持ちをです、この4年間しっかりとこの初心を忘れずに4年間頑張りたいとこのように思います。ええ、初めての質問の席でございますので、若干私の思いを述べさせていただきます、一般質問に移らしていただきたいといます。ええ、私の日頃の理念は、ええ、感謝、人の輪、夢づくりでございます。感謝とは今まで、町政に大きく貢献されました先輩方に対してでございます。2番目の人の輪、この町政におきましては、人の輪が非常に大切だと思います。3番目の夢づくり、夢を語り、夢をみないという政策や、いいまちづくりはできないというふうを考えております。従いまして、大きな夢を町民の皆さんとみて、素晴らしいまちづくりをしてみたいというふうに思います。ええ、次に行政、町政と言えどもやはりこれからは民間意識を大いに取り上げて、効率化はもちろん、一つの事業を、一つ一つの事業結びつけて、1足す1は3になるような事業展開を私は望みます。こうして執行部の皆さんと私たちは相対してすわとりますが、いいまちづくりをしようというこの思いはみな一緒です。みちおのさか、ええ、山を登るとき、こう登ったがいい、ああ登ったがいい、ということや、方法論でいろいろ皆さんと相対することはありましても、やはり調和と協調の精神でしっかりと目的地に向かって私は頑張りたいとこのように思います。この町に生まれ住んでよかった、そして邑南町に住んでみたいというようなまちづくりをこの4年間一生懸命皆さんと共にしっかりと頑張りたいといますので、よろしく願いいたします。通告で二つの質問を私は掲げております。まず第1点目は矢上高校の教育振興と存続の問題であります。まずこの問題に対しまして、町長はどのようなお考えをお持ちなのか、まずお聞きしたいと思います。

●石橋町長(石橋良治) はい、議長。

●議長(山中康樹) 石橋町長。

●石橋町長(石橋良治) あのう、申すまでもなく、まあ、申すまでもなく、矢上高校というのは、町の振興のほんとに大事な大きな柱だということで、私が8年前に立候補して以来、当選またさして以来、そのことを中心にまあ、やってきております。それはまあ、産業振興や定住対策やとにかく邑南町が発展するためには、矢上高校なくしては考えられないと、こういう思いでいっぱい、で、ええ、ま、現に3学級が2学級になるかもしれないと、いった時がございました。そりやまあ、合併してすぐであります。町民の皆さん方のたいへんな署名をいただいて、そしてまあ、いうならば県教委の考え方をかいさ、変えたと、こういうような事実もあったわけでございます。で、まあ、その当時県教委は将来邑南町は生徒数も減って2学級になるだろうという思いで、そういう考え方があったんだろうと思いますけども、未だかつてですね、定員を割った、あのう、県教委が81名以上確保しなきゃいけない、80名以上、以下、2年連続やったらこうだよということにはなっておりません。あのう、ずうっとその基準を守っております。これもほんとに皆さん方のお陰だと、まあ、いうふうに思っております。ええ、とにかく3学級維持のために今後もやっていかなきゃならん、まあ、こういう思いであります。

- 漆谷議員(漆谷光夫) 議長。
- 議長(山中康樹) 漆谷議員。
- 漆谷議員(漆谷光夫) ええ、町長の熱い思いが伝わりましたので、非常に次からの質問がやりやすくなりました。ええ、続きまして、定住促進課長に伺います。矢上高校教育振興会の取り組みと支援について、ええ、説明をお願いします。
- 原定住促進課長(原修) 議長、番外。
- 議長(山中康樹) 原定住促進課長。
- 原定住促進課長(原修) ええ、矢上高校教育振興会の活動内容ということでございますが、ええ、議員おっしゃいますように、ええ、邑南町唯一の高校である矢上高校の存続は、町としても重要課題として捉えており、子育て村構想でも小中学校の教育の充実と、充実を始め、ええ、教育振興会での施策を進めるとめいって、銘打っております。ええ、また加えて昨年より、3カ年に渡って実施する離島中山間地域の高校魅力化活性化事業というものも併せてやっておりますが、ああ、当面この矢上高校教育振興会での事業、特徴あるものとしては、4本の柱がございますが、ええ、学力向上が一つ、ええ、二つ目に特色ある教育、三つ目に地域との連携、四つ目に情報発信という柱を掲げてそれぞれ事業展開しておりますが、主なものは特色ある教育として、あのう、アントレプレナーシップ教育という、これはまあ、横文字ですが、起業家精神といって、起業家、起業精神を養う勉強、授業ということで、そういった事業を取り入れております。情報発信としてはおおなんケーブルテレビ等との連携で、ええ、矢高支部というのを設立して、ええ、技術指導等を仰ぎ、あのう、生徒さんがそのう、ケーブルテレビでの技術を学んでおります。
- 漆谷議員(漆谷光夫) 議長。
- 議長(山中康樹) 漆谷議員。
- 漆谷議員(漆谷光夫) ええ、よくわかりました。ええ、これからは若干私の提案型質問になるかと思いますが、ええ、お答えできることはお答えしていただいて、今できないものはできないと言っただけであればよろしいかと思えます。ええ、まず、通学のバス運行とこの利便性について伺います。
- 原定住促進課長(原修) 議長、番外。
- 議長(山中康樹) 原定住促進課長。
- 原定住促進課長(原修) ええ、通学バスの利便性ということですが、ああ、通学バスの運行というのはまあ、必要不可欠なものであり、あのう、羽須美地域、瑞穂地域、川本町からの通学バスとしてはおおなんバス邑南川本線が、市木地区からはおおなんバス瑞穂インター線、日和地区からはおおなんバス日和線、浜田市旭町からはおおなんバス日貫線を走らせています。また、大和からの矢上高校通学専用支援便というのも運行しており、現在生徒総数が285人のうち105名の生徒さんが、こうした通学バスを利用されております。
- 漆谷議員(漆谷光夫) 議長。
- 議長(山中康樹) 漆谷議員。
- 漆谷議員(漆谷光夫) ええ、お尋ねしますが、羽須美方面はどこまで運行されとりますか。
- 原定住促進課長(原修) 議長、番外。
- 議長(山中康樹) 原定住促進課長。
- 原定住促進課長(原修) ええ、先ほど申しましたとおり、羽須美地域からの生徒さんについては、ああ、おおなん、ああ、瑞穂道の駅での乗り換えで、ええ、おおなんバス邑南川本線の、線との接続便を設けておりますので、そうした形で、ええ、通学していただいております。現在、ええ、その路線を使って通学されている生徒さんはお一方いら

っしやるという現状です。

●漆谷議員(漆谷光夫) 議長。

●議長(山中康樹) 漆谷議員。

●漆谷議員(漆谷光夫) ええ、まあ、私の希望からすればですね、まあ、直行便を伸ばしてもらいたいということと、次にですね、金城方面から非常に矢上高校へ入寮とかされる方がたいへんにおられます。ええ、今、旭までいっとるバスを金城まで伸ばすことはできないものか、また来年日和から桜江へ抜ける農道が3月に開通しますが、これについてもバスの運行はできまい、できないものか伺いたいと思います。

●原定住促進課長(原修) 議長、番外。

●議長(山中康樹) 原定住促進課長。

●原定住促進課長(原修) ええ、現在金城から通学、直通で通学できるバスはございません。まあ、石見今市から日貫線がありますので、その接続をとということでお知らせしているわけですが、この金城からの入学生が増えてこの延長希望、議員おっしゃいますように希望もあるんですが、あのう、日貫線はスクールバスでもあって、延長はこのう、本来の業務に支障をきたすので困難であるというふうに思っております、まあ、入寮の方を進めておる現状でございます。ええ、桜江地区からの通学バスの接続も現在のところありません。ああ、先ほどの質問のあのう、追加ですが、補足ですが、ええ、羽須美地区からのちよ、矢上高校への直行便ということで、ご要望ございましたら、ただ今そのう、道路、トンネル開通等を待っている状況でして、その路線が開通しましたら、あのう、検討をするという思いでございます。

●漆谷議員(漆谷光夫) 議長。

●議長(山中康樹) 漆谷議員。

●漆谷議員(漆谷光夫) 桜江と金城については、まあ、できないということですが、ああ、一蹴しないで考えて見るというような回答は私は欲しかったわけで、やはり入寮はどうもいやだけど、通学できれば矢上高校へ通ってもいいという人が随分おられるんじゃないかなろうかという情報も得とりますので、ええ、こんど、今後の検討課題として、ええ、取り組んでいただきたいというふうに思います。これもバスの直行に関係することなんです、まあ、浜田作木線についてはまつ、また別の機会、ええ、この場で質問したいと思いますが、ええ、やはり、浜田作木線は邑南町の東西を結ぶ大動脈でございます。これは経済的にも観光的にも今申しております通学の問題にしても非常に大事な路線でございます。この辺の浜田作木線の進捗状況について、ええ、伺います。

●森上建設課長(森上寿) 議長、番外

●議長(山中康樹) 森上建設課長

●森上建設課長(森上寿) 主要地方道浜田作木線の工事の進捗状況、まあ、今後の見通しということでございますが、まず、あのう、先ほど話出ております雪田ほう、ああ、ええと、羽須美地域の雪田工区、ま、現在進めておりました、平成25年度今年度は今現在行っております雪田工区の大規模掘削、トンネルの入り口ですね、大規模掘削を施工しております。で、26年度にですね、ええ、1月にあのトンネルの掘削工を発注してですね、26年度中にはトンネルが開通するという予定になっておる、県の方の予定になっておる、おります。続きまして、いつ開通ということでございますが、27年度に羽須美地域の雪田、ま、本多工区、最終的な取り付け工区がありますので、27年度中には、ま、工事が施工してですね、あの雪田工区につきましては27年度にまあ、開通という県の方からの予定というふうに聞いておるところでございます。ま、その他あのう、浜田作木線につきましては、今現在、日貫地区の鳴滝工区現在進めております。鳴

滝工区につきましては現在24年度繰り越し分を合わせまして今年度中にですね、あのう、工区は完成する予定でございます。また吉原工区も今年度から測量等、測量設計等に入っております。ま、今後順調に進めていただければと思っております。ところでございます。浜田作木線につきましては以上の進捗状況と今後の予定でございます。

●漆谷議員(漆谷光夫) 議長。

●議長(山中康樹) 漆谷議員。

●漆谷議員(漆谷光夫) ええ、浜田・作木線については私どもも期成同盟会をつくって、ええ、がんばるところなんです。ええ、少しでも早く一本の線で結ばれるように、ええ、町長さんを始めですね、県の方へ働きかけていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。ええ、次にこれは矢上高校の経済的な効果いいますか、どれだけの町に与える影響があるか。ある調査によりますと、にえ、2億円を超えるんではなからうかというような調査もあります。その点について、ええ、の、見解をお願いします。

●藤間総務課長(藤間修) 番外。

●議長(山中康樹) 藤間総務課長。

●藤間総務課長(藤間修) ええ、あのう、矢上高校の卒業生会の事務局をしておりますので、すみません、ひとこと。あのう、以前にあのう、前、飯塚校長がその試算をいたしました。あのう、寮の例えば食材費とか、学生が周りにそのう、使う教材費の、とかですね、バスの料金とか、それから、ええ、諸々のことを経済を合わせると、大体2億円ぐらいになると、ですから、町にとっては非常に大きな経済効果がある学校であるということを持論を述べられているのを聞いたことがございます。情報はこれだけでございますが、すみません。

●漆谷議員(漆谷光夫) 議長。

●議長(山中康樹) 漆谷議員。

●漆谷議員(漆谷光夫) ええ、たいへん難しいことを聞いて申し訳ありません。ええ、私の方から、ええ、素直にですね、私の試算を述べればえかったんですが、ええ、申し訳ありません。だいたいですね、まあ、おそらく他校へ、矢上高校がなくなってよそへ、寮に入ったりすると恐らく4万から5万ぐらい寮費がいるんじゃないかならうかと思えます。ええ、まあ、軽くにひや、ええ、200人だとしても、まあ、それなりの金額が出ます。あれと、やはりこの地域から職員さんを含めてですね、生徒さんが、ええ、よその学校へ行かれますと、やはりこの地における消費量も減ります。それも、ま、ざっとひとり頭千円として計算してもですね、年間言いますとすごい金額になります。併せて高校の職員さんがおられますが、この方もおられないようになりますと、ここに住居を、がなくなりますと、町民税も減ってきます。そういう意味からして私も計算しましたが、皆さんもどうか計算していただければ分かりますが、恐らくいろんなことを加味して考えますと、2億円という数字は、ええ、あながち嘘の数字ではなからうかというふうに考えます。まあ、これは頭の中に置いてもらっただけで結構です。次にやはり小中高とやはりこの町に学校がないと、小学校、中学校を、の、子どもさんを持たれる親御さんはよそへ流出されるといういろいろな所からの情報を得とります。やはりそういう面からしても、定住の大きな、大きな柱であることは間違いありません。また、Iターン、Uターンを進めるにしても、インターネットで検索したときに、邑南町に高校は有ると無いのでは随分状況も変わってくるのではなからうかと、大きな判断材料になるのではなからうかというふうに私は考えております。その点について定住

課長の方からご意見を伺いたいと思います。

- 原定住促進課長(原修)** 議長、番外。
- 議長(山中康樹)** 原定住促進課長。
- 原定住促進課長(原修)** 議員さん、お見込みのとおり、ごもっともなご意見だと認識します。
- 漆谷議員(漆谷光夫)** 議長。
- 議長(山中康樹)** 漆谷議員。
- 漆谷議員(漆谷光夫)** ありがとうございます。ええ、次にこれからの、来年度からのいわゆる今の中学3年生、来年度卒業される方の数値がありましたら、教育課長の方でわかりますか。お願いします。
- 田中学校教育課長(田中節也)** 番外。
- 議長(山中康樹)** 田中学校教育課長。
- 田中学校教育課長(田中節也)** ええ、今年度の中学第3学年の総数は75名と掌握しております。
- 漆谷議員(漆谷光夫)** はい、議長。
- 議長(山中康樹)** 漆谷議員。
- 漆谷議員(漆谷光夫)** まあ、そういう危機感を持ってですね、ええ、矢上高校の三宅校長さん、行政こん、懇談会ほとんどの会場を回られました。本当に頭の下がる思いで敬意を表したいと思います。校長先生がそれだけされとるわけですから、町としてもこの点について真剣に、一生懸命、ひとりでも多くの生徒さんに矢上高校に入学してもらうように最善の努力を払うべきではなかろうかというふうに思います。ええ、向こう10年の数字は、ええ、ここに控えをもっとりますが、ええ、26年度は88名、27年は99名、28年度は88名、29年度も88名、30年度は78名、31年度は81名というような数字が出とります。ええ、今年よりはいいからといって、油断するわけにはいきませんので、ええ、やはり、矢上高校の、入学していただく生徒さんはコンスタントに毎年、ええ、矢上高校の3学級81人を超える数字で推移していくように、私どもも一生懸命頑張らねばいけないというふうに考えております。ええ、続きまして、ええ、これだけ私が熱くなって言うかといいますと、海士町は2300から400ぐらいの町です。その町に隠岐島前高校があります。聞いて見ますと140名の生徒さんが勉学に励んでおられるそうです。その内46名、約3分の1は県外つまり松江、出雲を除いた関東方面、関西方面から生徒を、これは島留学と言うそうですが、ええ、46名の方が全国から隠岐のどうぜん、どう、島前高校へ入学されとります。やはり子どもさんが隠岐で勉強されておりますと両親も来られます、きょうだいも来られますということで非常に島の活気もあるというようなことも聞いとります。これはまあ、そこまで、ええ、邑南町は、ということになります、これも私の意見であります、私が勝手に名付けました、孫Uターン留学制度なるものを導入したらどうだろうか、働き盛りの人はまだ帰られんけど、ええ、子どもだけでも矢上高校に入学する希望があれば、親御さんもそういう気持ちがあれば、じいちゃんばあちゃんのところで矢上高校に通って勉強してもらおうと。何故そういうことを私が言いますと、数年前旭町で聞きました。孫の送り迎えでたいへんなんですいうて、どこへ通うとんさるかねえいうていうたら、矢上高校へ通うとります。たいへんじゃあるが生きがいになります、子どもも元気で野球部へ入ってがんばとります。まあ、子どもがおることは非常に私らも励みになるし、元気の源になりますと、いう言葉を聞きました。なるほどなあと思いました。それがヒントで今回もシングルマザーもいいですが、やはりこういう直接この邑南町に血のつながりがありま

すから、じいちゃんばあちゃんの元で矢上高校へ通えるなら素晴らしいことではなからうかと思えます。じいちゃんばあちゃんいきいき、子どものびのび、そして両親は安心という、まあ、全てがいいように私は感じます。これも取り組んでみる必要があるんではなからうかと思えますが、これについて見解を伺います。

●石橋町長(石橋良治) はい議長、番外。

●議長(山中康樹) 石橋町長。

●石橋町長(石橋良治) まあ、あのう、状況はとにかくあらゆる手を打たないといけないということですから、ああ、今の孫Uターン制度も一つの考え方だろうと思えますので、ええ、いろいろ検討してみたいというふうに思います。それで結果的に矢上高校の入学者が増えればいいわけですから、まあ、提言としてしっかり受け止めたいというふうに思います。

●漆谷議員(漆谷光夫) はい、町長、ああ、あ、議長。

●議長(山中康樹) 漆谷議員。

●漆谷議員(漆谷光夫) 町長さん受け止めていただきまして誠にありがとうございます。ええ、次に介護職の求人倍率が島根県平均で0.93、大田、邑智2.11という数字があります。私は昨日も話がありましたが、やはり介護のこれからの担い手という意味を含めてですね、やはり、これもちょっと飛躍した話かも知れませんが、矢上高校に世の中にニーズの、ニーズに応えるような福祉科のようなものを設置してですね、今の体制を守るでなしに、もっともっと矢上高校を成長させるような考えはあるでしょうか。やはりこれはハードルの高い問題だと思いますが、一度考えてみたい、いただきたいと思えます。この点について何かございましたら、ご意見をいただきたいと思えます。

●石橋町長(石橋良治) はい議長、番外。

●議長(山中康樹) 石橋町長。

●石橋町長(石橋良治) あのう、ちょっと振り返りたいと思うんですけども、あのう、合併したときには教育委員会が矢上高校の所管をしておりました。これじゃああ、まあ、手に合うまいと思えます。で、はやばやに本庁部局へ持って来た、ほいで、やっぱり定住の位置づけということで、定住、当時は企画課みたいなものがありましたけど、そこへ持って来て、確か、中央高校は今年からですかね、本庁部局に、まあ、我々はそういう意味では、まあ、はやばやと総合的にいろいろと施策をとりたいために持ってきてるということでもあります。まあ、そのことを1点理解いただきたい。で、その中でやっぱり今の福祉のような担い手づくりについてはですね、やっぱりあのう、定住促進課が所管しながらも、やっぱり福祉課と連携をしてどうやってやっていくかってということは大事なことだろうというふうに思うんです。ええ、も一つですね、あのう、おっしゃる介護福祉の人づくりということ、ちょっと参考に言いますと、ええ、今年度から夏休みに介護体験を10人程度だというふうに聞いておりますが、ああ、高校がやると言うことを聞いております。で、これは町内の3施設、桃源の家、えと、あさぎり、それからサンホームみずほ、のところでですね、ええ、少しロングランで夏休みを利用してやるということ聞いております。で、これはあのう、県の高齢者福祉課の支援グループからも応援をいただくということ聞いておりますので、まずそういったまあ、アントレプレナーシップというか、まずは体験してみるということから、ああ、将来的に専門学校へ行くとかいうことでこっちへ帰って介護福祉をあたっていくことの流れを、まあ、作っていききたいなあともまあ、こういうふうに思います。

●漆谷議員(漆谷光夫) 議長。

●議長(山中康樹) 漆谷議員。

●**漆谷議員(漆谷光夫)** 次に矢上高校でスイーツ甲子園とか、ええ、やはり畜産部いろいろあるわけですが、これとA級グルメを結びつけてですね、高校生の素晴らしい発信力とA級グルメを町が発信するその相乗効果でですね、矢上高校のいろいろ生徒が頑張っているというふうには思います。ええ、この点についてはええ、私の意見でありまして、ええ、かい、お答えはいりません。次に矢上高校の提言ということで、まあ、プロジェクトの、いわゆる離島中山間地の魅力化事業にのっとりまして、が、ええ、高校生の提言もですね、やはりペーパーでなしに、町長さん自ら高校生と生の声を聞いて、高校生は素晴らしい発想をもっとられますし、新しい感覚があります。平成21年に教育振興会がそういう場を持たれたときに私は高校生の意見に感動しましたし、非常に高校生は、今頃の高校生は素晴らしい考えをもっとられる、それを強く感じました。このこともやはりただ紙に書いていただいでなくでなしに、やはり町長自ら高校生と向かい合って対話することが大事じゃあなかろうかというふうには考えます。この点について伺います。

●**石橋町長(石橋良治)** はい議長、番外。

●**議長(山中康樹)** 石橋町長。

●**石橋町長(石橋良治)** ええ、まったくやってないということではなくて、やっぱり町長になってから、回数的には多くないんですけどもやりました。確かにあのう、いい意見がどんどん出ます。で、それはやっぱり今後も続けていきたいなあという、一つの一貫としてですね、ええ、邑南町のまちづくりにおける課題、問題点を見つけてその解決策を提言するというのを今お願いしております。ええ、まあ、4ヵ月ぐらいかけてやるわけですが、ああ、11月1日に矢上高校の体育館において町長に提言をする予定というふうには聞いておりますので、そこに、そこでまた大いに議論をしていきたいなあというふうには思います。

●**漆谷議員(漆谷光夫)** はい、議長。

●**議長(山中康樹)** 漆谷議員。

●**漆谷議員(漆谷光夫)** はい、ええ、矢上高校の最後の私の思いでございますが、やはりまちづくり構想の中にそして子育て日本一の村づくりの構想の中に矢上高校を是非とも組み込んで、県の方から矢上高校はどがあしょうかいうことでなしに、中山間地の核として矢上高校はどうしてもなけにゃいけんと、県の方からそう言ってもらえるような高校に子どもは育てていく責任はあるのではなかろうかとそのように考えておりますので、よろしく願いいたします。次に学校図書司書配置のことについてお尋ねします。質問の2番目でございます。まず学校図書司書の配置の経過についてご説明願います。

●**田中学校教育課長(田中節也)** 番外。

●**議長(山中康樹)** 田中学校教育課長。

●**田中学校教育課長(田中節也)** ええ、学校図書司書の配置の経緯でございますけども、あのう、島根県ではですね、ええ、子どもの読書活動の推進を図るという目的で、平成21年度から25年度までの5カ年計画ということで、ええ、第二次の島根県子ども読書活動推進計画というものが策定されました。で、その骨子の一つにですね、ええ、財政支援によって、学校図書館への図書司書の配置を市町村へ促し、ええ、人のいる図書館を目指すということが示されたところです。ええ、これを受けてまして、邑南町では読書活動の推進と学校図書館の効果的な活用と運営を図るためにですね、ええ、県の子ども読書活動推進事業交付金の要綱に定められているところのええ、学校あたり、5学級以下の学校に対する配置基準でありますボランティア活動費のみの対象校、それと、6学級以上11学級未満の学校に対します配置基準である学校司書Aという配置対象校が

両方あるわけです。ええ、これがですね、ええ、うう、平成25年度ではですね、ボランティア対象校が7校、それから学校司書Aの対象校が4校が現状でございますけども、おう、まあ、ボランティア対象校につきましてはですね、県の交付金の基準ではですね、交付金が20万、年間20万の交付金の基準でございます。ええ、これがまあ、7校あるわけですが、町の単独費を上乗せしてもらいましてですね、ええ、平成21年度からすべての小中学校、現在11校あるわけですが、学校司書Aという配置基準として1日に5時間、それで週5日の勤務体制で一律に全学校にですね、図書館司書、ああ、図書司書Aの配置してもらっております。で、その後も今日に至るまでに、図書管理に必要なパソコンですとか書架、そういった施設設備の充実も図っていただきまして、今日に至っているところでございます。

●漆谷議員(漆谷光夫) 議長。

●議長(山中康樹) 漆谷議員。

●漆谷議員(漆谷光夫) まあ、先ほど説明がありましたように、本来ならボランティアの7校をですね、邑南町全ての小中学校に司書Aを置かれたことにつきましては、非常に私は町長の素晴らしい判断で、素晴らしい大英断だというふうに思いまして、非常にまあ、敬意を表するところであります。やはりこのことは成果に出とると思いますが、この点について、しよ、制度を置いてからのこの成果についてご説明いただけますか、お願いします。

●田中学校教育課長(田中節也) 番外。

●議長(山中康樹) 田中学校教育課長。

●田中学校教育課長(田中節也) ええ、図書館司書を置いてからの今日至るまでの成果でございますけども、ええ、まあ、あのう、21年度以前、いわゆる学校図書館の司書を配置するまでの状況は私把握しておりませんが、小中学校のいわゆる図書の貸し出し冊数という統計からみますとですね、ええ、平成21年度は年間総数で2万2千957冊、うう、ひとりあたりで29冊になると思います。これまあ、全11校の児童生徒数で割った数字でございますけども、平成24年度では年間総数がですね、9万4千247冊、ひとりあたりにして73冊を数えておりまして、実に2.5倍という貸し出し冊数の実態がございます。ええ、で、学校によりましてはですね、年間200冊といった大量に本を借りて読んだ子もございます。ええ、まあ、そういった面で日常的に図書を活用する環境が整いつつあるのかなと感じております。それから県内他市町に先がけましてですね、平成24年度に本町初めて実施いたしました、ああ、図書を活用した調べ学習の成果を発表する、調べる学習作品展というものをやったわけですが、これへまあ小中学校合わせて100点を超える出展もございました。ええ、さらにはですね、ええ、県が主催しました読書感想文コンクール、これで優秀賞を始めとした入賞が多数出ております。それから同じく島根県の、調べ学習プレゼンテーション大会というのがありまして、これには中学校の部で最優秀賞、小学校の部でも優秀賞を受賞するなど実績がありまして、読書活動の成果として表れているものと感じております。以上でございます。

●漆谷議員(漆谷光夫) 議長。

●議長(山中康樹) 漆谷議員。

●漆谷議員(漆谷光夫) このようにですね、あのう、とかくこの頃はテレビゲームとかインターネットとかそういうメディアの方に頼る子どもが増えとるわけですが、やはり活字に親しんで、本を読んで、いろんな視野を、うう、ものの考え方をですね、幅広くしていくということについては非常に読書ということはたいへん、あのう、大切なことだ

ろうと思います。ええ、そいで次に、ええ、伺います。県の交付金の制度が21年度から25年度ですから、来年の3月で終わります。その後の邑南町に、今学校司書を配置されとりますが、26年度からどういうお考えでおられるのか、ええ、これについては、ええ、町長さんですかいね、よろしく願います、ああ、はい。ほいじゃまあよろしく願います。

●土居教育長(土居達也) 番外

●議長(山中康樹) 土居教育長。

●土居教育長(土居達也) ええ、先ほどあのう、課長が答弁した中でもありましたけども、非常にまあ、成果が上がっているというふうに思っております。あのう、体の栄養はまあ、口から入りますけども、心の栄養は本から、この本は世界へもまあ、つながっているというふうに言われております。から、まあ、私たちが生きてる社会、まあ、これから生きる子ども達の社会というのはほんとに答えを探すのに、難しいような課題がたくさんあると思います。ま、そうしたときに、まず正しい知識を得る方法を知っていることは、ええ、それを課題を解決をしていくための最大のまあ力になるんだろうというふうに思います。そういう中で、ええ、読書に親しむというところから、さらに調べていく、そういう力を子ども達につけてやることはほんとに大事だというふうに思っております。まあ、そういった点で学校図書館司書の持っている役割というのは、まあ、先生ももちろん同じですけども、ええ、そういったことを、図書館に人がいるということとは大きな力になるというふうに思っておりますので、ええ、財政上ほんとに厳しい中ではあると思いますが、ええ、教育委員会としては是非この事業を続けていただけるようお願いしていきたいというふうに思っております。

●石橋町長(石橋良治) はい、議長。

●議長(山中康樹) 石橋町長。

●石橋町長(石橋良治) まあ、教育長からそういう強い要請が、私の方にあつたということでございます。で、確かに町政座談会この度でも何カ所かたいへんに継続の要望が出ております。あのう、効果も上がってる、うう、ということを考えれば、まあ、あのう、まあ、前向きに考えなきゃいけない課題かなと実は思っております。で、読み聞かせというのがありますが、実はあのう、私が町長になって、ええ、すぐに学校に行つてやれと言われたことは、読み聞かせをやっちゃんさいということのあるグループ、そういう読み聞かせのグループから言われました。で、矢上小学校に行つて何回かやりました。で、やっぱり私が下手ながら読み聞かせをやってもですね、一生懸命子ども達は聞いている、その目を見るとですね、やっぱりこれは、ああ、本に親しむということは大事なことかなっていうことを思った、まあ、それがまあ、今回の、まあ、町も上乗せをしてすべての11校に司書Aをつけるということに、まあ、至った原点だろうと、今振り返って思います。で、ま、財政的に考えるならば、県からは約400万でございますけども、司書Aを全校に配置するとなれば約1千万ということでございますので、ええ、町は600万を上乗せして、今継続をしてるということをや、ご理解いただきたいと思っております。で、まあ、あのう、この本の、ほん、学校図書の、まあ、効果というのは私は5年間では出ないと思うんですね、まだまだやっぱりロン、長く長く考えていって、それが子ども達が大人になって効果が出てくるような気がいたします。ですからやはりこの制度というのは続けるべきであろうとまあ、いうふうに、まあ、思っておるわけです。で、そのためにはまず今県がやっていらっしゃる制度、確かにこの26年度で切れますので、ええ、これは、これはおそらく全国、ああ、島根県内の市町村の思いでもあると思っております。続けて欲しいというのは。従って私も県の町村会の役員をやつてますので、26年度の財政措置として、ええ、この学校図書

の制度を続けて貰いたいっていうことを、まあ、知事に直訴していきたくて、まあ、いうふうに思っております。うう、で、ま、その時にいやあ、もう県はやめるよと、まあ、こういう結論がほんとは出して欲しくないんですけど、出た場合にじゃあどう考えるかということについてはですね、やはりあのう、26年度の予算を考える中で、やはりよく状況を見て、ええ、まあ、人づくりという観点からどう考えるかと言うことを前向きに考えてですね、ええ、取り組んでいきたいなという思いをご理解いただきたいとまあ、いうふうに思います。で、もう一つ最後に申しあげたいのはですね、あのう、確かに学校図書司書を配置して効果は上がってるという話がありました。ああ、だけでも次の5年間、例えば続けるということになれば、やっぱり町全体、町民等しくですね、誰もが本に親しむ、本を活用していくっていう雰囲気を作らなきゃいけない、次のステップだろうというふう思うんですね。子どもだけじゃなくて。で、それはやっぱり家へ帰っても親が読み聞かせをすとかですね、やっぱり家庭の、その読み聞かせの習慣をつけるとかいうところまでほんとはいかないといけません。ということになれば、我々世代も含めて今のおとうさん、おかあさん方がどれだけ本に親しむ、親しんでいるだろうかということをやったり我々ももう少し反省すべきだろうと思うんです。大人がですよ。大人が。で、そのまあ、一つの、まあ、数値でありますけども、ええ、島根県の統計の数字を私見て、見たんですね、で、出雲市がですね、ええ、まあ、いろんな図書館があります。市全体で図書館があります。蔵書が68万7千冊あります。約。貸出冊数が140万冊。2倍以上貸し出しをしてるんです。安来市もそうですね、安来市も13万2千の蔵書があって、貸出冊数は24万、これ市の図書館の話ですよ。2倍以上貸し出しがあるわけです。じゃあ邑南町どうかというと邑南町の町立図書館は三つありますね、その三つの蔵書が7万6千冊だということですが、残念ながら貸出冊数は3万4千800というのが、これ22年、23年の統計だと思えます。つまりそれだけ差があるわけです。確かに出雲市、安来市は飛び抜けて高い、後はみんなやっぱり蔵書冊数以下であります。で、ここんところをやったり町立図書館の活性化、この三つの図書館の活性化ということも併せ持って考えないといけないと思えます。次のステージでは。そしてそこでやっぱり貸し出しだけではなくてそこでやっぱり学習をしていくというような雰囲気も作っていく、うう、この図書館全体がですね、やっぱり活性化していくようなことがやっぱり次は望む、望むような姿であろう、そのためにやっぱり予算をどうするかというようなことになるんじゃないかな、そこまで考えないといけないのかってというふうな思いがあります。

●漆谷議員(漆谷光夫) 議長。

●議長(山中康樹) 漆谷議員。

●漆谷議員(漆谷光夫) まあ、最後にええ、教育長の方からも心の栄養という素晴らしい言葉も承りましたし、まあ、町長の方からも、この問題については積極的に前向きに考えるというような回答だと受け止めました。ええ、まあ、全体を通して後ろ向きな点もなかったかも、あったかも分かりませんが、全体を通してはですね、非常に前向きな回答をいただきましたので、私も第1回の質問に立たしていただきましたが、ええ、これからは精一杯、ええ、素晴らしい、魅力ある、活力あるまちづくりのために頑張っていきたいとこのように思います。どうもありがとうございました。

●議長(山中康樹) 以上で漆谷議員の一般質問は終了いたしました。ここで休憩に入らせていただきます。再開は午後2時25分とさせていただきます。

—— 午後 2時11分 休憩 ——

—— 午後 2時25分 再開 ——

●議長(山中康樹) 再開をいたします。続きまして通告順位第8号日清水議員登壇をお願い

します。

●清水議員(清水優文) 議長。

●議長(山中康樹) 11番、清水議員。

●清水議員(清水優文) 11番清水優文でございます。本来3月議会で質問を予定しておりましたが、しゅじの事情で質問しておりません。6月に期待を込めて質問をする機会を得ました。まことにありがとうございました。今後ともよろしく願いいたします。ええ、私は今回、ええ、安全安心のまちづくりをもとに通告をしております5点について質問をいたします。まず第1に邑南町の玄関口である、瑞穂インター駐車場の整備について、隣町の大朝インター駐車場と比較しながら質問をいたします。その前に現在邑南町ではUターンとして、広島へ、広島市内に通勤通学する場合、高速料金、高速バス代に対し、助成する実証実験をしておられますが、今利用者がおられますか。

●原定住促進課長(原修) 議長、番外。

●議長(山中康樹) 原定住促進課長。

●原定住促進課長(原修) 越境通勤助成実証実験についてでございますが、現在、2名の方が実験中でございます。矢上地区在住の方が、瑞穂インターから広島市内の西区へ、市木に在住の方が、瑞穂インターから広島市中区へ、それぞれ、それぞれ自家用車による高速道路利用通勤と高速バスによる通勤でモニターとして実施中であります。

●清水議員(清水優文) はい。議長。

●議長(山中康樹) 清水議員。

●清水議員(清水優文) ええ、それでは、ええ、瑞穂インター駐車場と大朝インター駐車場との比較を述べさせていただきます。ええ、昨日、ネクスコへいきまして、調べて戻りました。ええ、バスのストップ便数、瑞穂インターは、と、大朝インターは同じです。利用者車台数は瑞穂インターが10台、大朝インターは4倍の42台、ええ、主な利用者地域は瑞穂インターは市木地域と旧石見地域、大朝インターは旧大朝、旧瑞穂地域と大田市、川本町の方も利用されております。駐車場と停留所接続の関係は、瑞穂インターは山が接近していて、暗い感じで怖い、大朝インター、比較的近くに開けて明るい感じ、距離は瑞穂インターが80m、風雨を凌ぐ回廊はなし、大朝インターは30m程度、急勾配部分に10mの回廊があります。夜の照明、瑞穂インターはバス停から駐車場まで暗い、大朝インターバス停は回廊部分は階段であるが照明が最終便まで点灯している。斜路、瑞穂インターは冬期間は急勾配で歩行も困難、転倒された方もあるようです。大朝インターは回廊以外問題ないということで、たいへんに差があります。たまたま昨日台数を9時半ごろインターネットで調べましたが、ええ、瑞穂インターはここで10台、大朝インターは42台も止まっております。この差がなぜか、と思うところでございまして、ええ、まあ、瑞穂地域の方は概ね大朝インターをお使いになったが近いと思いますが、ええ、石見地域の方がだいぶ大朝インターの方へいっとられるんじゃないかと思うと思います。ということで、ええ、瑞穂インターの改良を望むわけですが、いかがでございましょうか。それと今の区別について、比較について何かあればお知らせ願いたいと思います。

●藤間総務課長(藤間修) 番外。

●議長(山中康樹) 総務課長。

●藤間総務課長(藤間修) ええ、瑞穂インターの駐車場の比較とそれから拡張等のお話でございまして、あのう、北広島町へこちらも確認いたしました。ええ、大朝は旧大朝町から現在北広島町の管理をしているということ。で、実際に、ええ、収容台数は100台だそうでございます。で、さらに駐輪場、カーポート、自転車18台から20台

が止められる、それにトイレが、トイレがついておりまして、木造平屋の28平米のものであると、そういう差がございます。一方瑞穂インターは町道の市木インター線沿いでございまして、駐車場という位置づけはしておりません。法面に収容台数40台、上の方に22台、下の方に19台、合計40台止められるという、そういうことになっております。で、先ほどのあのう、改良等の関係でございますが、こちらあのう、ネクスコの方の事務所に伺いまして、あのう、伺いましたんですが、まず一番はインター入り口の駐車場の利用、今できないということになっておりますが、あそこを使わしてもらうのが一番じゃあないかというまず前提で伺いましたところ、あのう、基本的には瑞穂インターチェンジの管理事務所の駐車場であるということなので、進入及び駐車禁止としておるということとございました。しかしながら高速バス等の利用客の送迎等の一時的なものは便宜を図っているとか、あのう、高齢者や障害者の方などのことにも便宜を図っているというものの、まあ、ええ、進入禁止の看板によるし、周知をしているので、バス利用者への配慮は行っているけども、基本的には使えないということとございました。しかし、まあ、あのう、入り口の、駐車場の入り口が、ETCの料金の出口に近いので事故の未然防止のためにも、とにかく一般車両の進入禁止措置をとっているということで、いずれにしても長期間の駐車はご遠慮願いたいということで、上の方はなかなか使いにくいということだと思います。それからそこに遺跡の部分がございますが、これもあのう、遺跡をこう移動して、例えばそこに、ええ、10台ぐらい止められないかということも考えましたが、どうもそこは遺跡自体が、今佐屋山遺跡という日本最古の製鉄遺跡で土地が県とネクスコの土地だということとであり、どうもこれも難しいということを検討いたしました。で、嵩上げのお話でございますが、駐車場へ隣接する町道、市木インター線は、まあ、これは町有地でよろしんですけども、インターへ進入するのは県道主要地方道の浜田・八重可部線でございます。で、これは県との道路交差点付近の取り付け協議が必要となりますが、インターチェンジの料金所、先ほど申しました料金所の出口に近いので、どうも安全面の観点から事故発生等の危険が高まることが予想されますので、県から許可のハードルがどうも高そうでございます。ということがございまして、まあ、もち、道にしましてみれば今ある八重・可部線沿って、例えばずうっとあのう、横を通って上まで行って、で、そこを嵩上げするという事なら可能かも知れませんが相当な予算を、あのう、嵩上げ自体にしても、恐らく2千万円以上のものがかかかりますので、非常にまあ、予算的なこともあろうかと思っております。で、また照明も上段下段の今2カ所照明の取り付けをいたしました。ま、不十分ではないかということも指摘を受けております。ですから、嵩上げの勾配の改修につきましても、どうも利用頻度の調査等も含めて各種方法をちょっと今検討させていただかないと、今このことが一番だということがなかなか言えない状況でございますので、まあ、あのう、今ご指摘をいただきましたので、そういったことを今後また検討していきたいというふうに考えております。

●清水議員(清水優文) 議長。

●議長(山中康樹) 清水議員。

●清水議員(清水優文) ということは現在は予算上、嵩上げは無理と、ということはあのう、照明装置等はできるわけですね。照明。

●藤間総務課長(藤間修) 番外。

●議長(山中康樹) 藤間総務課長。

●藤間総務課長(藤間修) ええ、再度になりますがあのう、道の嵩上げと照明について、両方ともでございますが、可能などこからやっつけていければ、いきたいと思っておりますので検討

させていただきたいと思います。

- 清水議員(清水優文) 議長。
- 議長(山中康樹) 清水議員。
- 清水議員(清水優文) えと、今日の今日ですけ、すぐ回答するのは無理だす、ですが、一応検討していただくという答えをいただきましたので、一応初期の目的は達成いたしました。続いて2番目の質問をいたします。ええ、一日200人以上が通行に使用している香梅苑と町立ゲートびょう、ボール場の進入路の拡幅、整備、改良です。この進入路は切り取っており、左右が高く見通しが悪く、車両間の離合が困難な状態です。ええ、県道も非常にスピードを出しております。入り口を拡げ、安全、安心な通行と利用者が望まれています、いかがでございましょうか。
- 森上建設課長(森上寿) 議長、番外。
- 議長(山中康樹) 森上建設課長
- 森上建設課長(森上寿) 議員ご質問のあの香梅苑、屋外多目的運動場の進入路についてでございますが、まあ、町道で申し上げますと西本町中別所線と主要地方道浜田作木線との取り付けについてのご質問でございます。ま、当該個所の交通安全対策につきましては、施設利用者の安全面から、香梅苑の開設時に島根県、島根県公安委員会と協議を行い、横断歩道の設置と道路照明等の設置をしているところでございます。しかし、あのう、議員ご指摘の、まあ、町道から県道に出るときの見通しについてでございますが、県道のブロック積が両側に施工されておまして、特に中野側の見通しが悪く、県道へ進入しないと車両が、車両がかくねん、確認できない状況でございます。幸いにもこれまでに重大な人身事故は発生しておりませんが、まあ、町としましても視距の改善にむけて県と協議したいと、協議をしてまいりたいと考えております。
- 清水議員(清水優文) 議長。
- 議長(山中康樹) 清水議員。
- 清水議員(清水優文) え、これも県と協議して話をすすめるということでございますので、早めに一つ協議していただきますようによろしく願いいたします。続いて3番目の質問でございます。矢上駅の整備、ええ、看板の絵の交換、照明設備についてでございます。これも私の一般質問で、ええ、案内板がありました、それを撤去して今の看板を作っていた経緯があります。看板の絵は現在、笑顔、元気となっております、矢上高校美術部の製作で、矢上高校のアピールをしております。毎年描き替えるというようになっておりますが、まだ今年も描き替えになつておりませんが、どうなつておりますかね。
- 原定住促進課長(原修) 議長、番外、
- 議長(山中康樹) 定住促進課長。
- 原定住促進課長(原修) 矢上駅の看板は、昨年改修設置したもので、ええ、矢上高校美術部の生徒さんにより、生徒さんの自由な発想で描いてもらっております。ご質問にありますように、毎年描き替えとなっており、今年度は来年の1月、平成26年1月に描き替えるよう予定しております。
- 清水議員(清水優文) 議長。
- 議長(山中康樹) 清水議員。
- 清水議員(清水優文) だいたい1年いやあ、今年の6月じゃああるんだが、まあ、来年の1月に描き替えということでございませいかいね、そうすとまあ、あのう、入学案内時期ですので、いいんじゃないかと思いますが、一つ守っていただきたいと思います。よろしく願いします。ええと、それからあのう、夕方、ええ、矢上高校の生徒が、バス

通学の生徒が三々五々所々で待っとるんです。そっすきにあのう、非常に暗いんですが、以前私が照明増をお願いしておりますが、これはいかががされましたか。

- 原定住促進課長(原修)** 議長、番外。
- 議長(山中康樹)** 原定住促進課長。
- 原定住促進課長(原修)** 議員ご指摘の通り、矢上駅のロータリーは照明がないため、日暮れ時暗くて見えにくい状況でして、これについては、地域の方からもそういったご意見をいただいております、安全性確保のため照明灯を新設することとしました。現在業者も決めて、今月末まで、6月末までに設置工事をする予定でございます。
- 清水議員(清水優文)** 議長。
- 議長(山中康樹)** 清水議員。
- 清水議員(清水優文)** たいへんありがとうございました。ええ、それと同時に、ええ、防犯カメラが矢上地内には今1個ほかないと思うんですが、ええ、あそこに設置いただいて、ええ、町のあたりをずうっと映していただくようにすれば矢上高校の生徒の安全確保、あるいは皆さんの安全のためにいいと思うんですが、これについてはいかががございましょうか。
- 細貝危機管理課長(細貝芳弘)** 議長、番外。
- 議長(山中康樹)** 細貝危機管理課長。
- 細貝危機管理課長(細貝芳弘)** ええ、矢上駅への防犯カメラの設置でございますが、あのう、結論から言いますと、もうしばらく時間をいただきたいと思います。実はあのう、3月の定例議会でもですねあのう、他の議員さんからも、まあ、全町ですが、あのう、一般質問がございまして、ええ、当時はまあ、総務課長があのう、検討するというところで回答しております。で、さっきのあのう、午前中の質問にもまた防犯カメラのことがありました。これは公民館でございますが、ええ、4月に入りまして、所管課を危機管理課におきましたもんで、それから川本警察署と現在いろいろ協議中でございます。で、この配置でございますが、いろいろな視点で配置の方法があるみたいでございます。で、設置者を誰にするか、あるいは管理費をどうするかっていうような問題がありまして、今川本警察署とも詰めております。で、具体的に言いますと、町が設置するのか、あるいは警察署が設置するのか、寄贈ということもあるみたいで。あるいは町民が設置する場合もあるみたいで。で、町民が設置される場合はですね、補助金を起動させるかしないかというようにございまして、今検討中でございます。で、矢上駅の分につきましてはですね、川本警察署とも具体的にちょっと話をさしてもらっていますので、ええ、結論は直ぐさまということになりませんが、いずれにしても、全町で何基いるかというような問題もありますので、前向きに検討していきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。以上です。
- 清水議員(清水優文)** 議長。
- 議長(山中康樹)** 清水議員。
- 清水議員(清水優文)** ええ、前向きに検討しとるということでございまして、たいへん喜んでおるところでございます。ええ、地域住民の方も望んでおられますので、ええ、早急に設置の方向でいただければと思います。よろしくお願ひいたします。ええと、次4番目に質問ですが、遊休施設がたくさんあります。今後どうするのか、管理、解体、多目的使用はという質問でございますが、石見地域には旧矢上保育所、石見ちゅうごう、中学校寄宿舎等遊休施設があります。今後どうなさるのか、管理、解体についてお伺ひいたします。
- 藤間総務課長(藤間修)** 番外。

●議長(山中康樹) 藤間総務課長。

●藤間総務課長(藤間修) 遊休施設についてのご質問でございます。ええ、普通財産となった施設は、現在、ほとんど未利用の施設はございません。例えばご質問にあります石見地域の遊休施設、旧矢上保育所ですけれども、現在は倉庫として利用しております。選挙看板あるいは商工会の備品とかあらがね太鼓の保管などに使っております。それから、石見中学校の寄宿舍、冠山寮でございますが、ええ、現在は倉庫として利用中で、中学校の備品等に利用しております。又あのを、断魚いわみ荘は、これは昭和45年から、最初からなんですけれども、ええ、邑南町の社会福祉協議会、当時石見町ですけれども、の、所有でございます、ええ、これは今あのを、利用について検討中だということでございます。またあのを、羽須美地域の旧三つ葉工業や旧石見地域の太陽化成とかいうのは民間の企業に貸しておりますし、井原の旧農協施設は地元の靱摺り施設とか、ええ、そういったことに利用させていただいております。あのを、資源の有効活用として再利用していただけるものについては、地域のニーズを踏まえながら協議して、まあ、できるだけ貸し付けるという方向で今やっております。もう一つ、老朽化が進んでいるもののごとでございますが、建物の状況を勘案して、利用可能なものは補助金等があれば活用して解体をしてきてまいりました。ええ、これまでもええ、一般財源ではなかなか対応できなかった老朽施設を国の臨時交付金を利用して、平成21年以来、約20施設解体しております。ですから現在残っている遊休施設は6施設しかございません。で、その中でも平成21年には旧井原小学校の体育館でありますとか、そばの校長住宅、石見で言いますと旧母子センター、旧商工会、平成22年には旧口羽小学校、旧養鶏団地の木造の建物、これ羽須美地域でございます。平成23年には旧の日和小学校、それから24年にみずほぶん、矢上高校の瑞穂分校等大きなものから老朽化した住宅、これは森実、高水、田所、田本、日南原、門前、断魚といったものを、可能な限り解体してきております。したがって、遊休施設はほとんどそういうふうに来うる限り解体してきているのが現状でございます。今後もそういう方針で、あのを、貸し付けできるもの、利用できるものは何とか利用していく、それから解体については予算の許すときに、なんとか解体していきたいという方向でおりますので、ご理解いただきたいと思います。

●清水議員(清水優文) 議長。

●議長(山中康樹) 清水議員。

●清水議員(清水優文) ええ、遊休施設は今利用しとるということでございます、でしたですが、ええ、それでええと、再利用するものはできるという答えでございましたが、今回教育支援センターとして整備するというご提案が今定例会に出ておりますが、旧矢上保育所を教育支援センターとして、整備使用することはできませんかね、可能ですかどうですか。

●田中学校教育課長(田中節也) 番外。

●議長(山中康樹) 田中学校教育課長。

●田中学校教育課長(田中節也) ええ、教育支援センターの整備につきましては、先ほど議員おっしゃったように、ええ、本定例議会の全員協議会の場で、ええ、新たな拠点施設の設置場所としての教育委員会の方針をご報告させていただいたところでございますけれども、ええ、教育委員会の方針といたしましては、矢上地内を中心として、ふさわしい場所を選定をすることとしておりますので、ええ、ご提案ありました旧矢上保育所もその候補の一つとして検討してまいりたいと思います。

●清水議員(清水優文) 議長。

●議長(山中康樹) 清水議員。

- 清水議員(清水優文)** ええ、支援センターとして矢上保育所を利用していただければ地域の方もたいへん喜ばれるんじゃないかと思っておりますのでご検討のことをよろしく願いをいたします。ええ、これに関連して、まあ、遊休施設になるかどうか知れませんが、ええ、矢上小学校の体育館の解体については通告しておりませんが、今朝ほどの討論を聞いておりますと、私12月の議会で質問いたしました。ええ、震度6以上で倒壊の恐れがある、危険な建物だということでございました。予算化されておるものがもう半年以上も解体にならないということはどうなっとるんでしょうかね。もしお答えできればお聞きしたいと思っております。
- 田中学校教育課長(田中節也)** 番外。
- 議長(山中康樹)** 田中学校教育課長。
- 田中学校教育課長(田中節也)** ええ、矢上小学校の体育館の解体につきましては、ええ、今年度当初予算で予算計上しております、今年度執行予定でございます。ええ、解体につきましてはですね、ええ、夏休みを利用して、ええ、解体する方向を考えておりますので、ええ、ええ、もうしばらくお待ちいただきたいと、発注準備をしておりますので、よろしくお願ひしたいと思っております。
- 清水議員(清水優文)** 議長。
- 議長(山中康樹)** 清水議員。
- 清水議員(清水優文)** ええ、夏休みに解体するということでございまして、たいへん安心をいたしました。ええ、つづいて、5番目の質問でございますが、町内各所交差点横断歩道等で道路表示が剥がれ、薄くなっており分かりにくく車両の通行、歩行者の横断は安全ではありません。まあ、我々は以前通っておりますから分かりませんが、他町村の運転者には分からないと思っております。除雪の関係と思われそうですが、鮮明な表示になるよう早急な対応を望むものですが、どうなっとりますかね。
- 藤間総務課長(藤間修)** 番外。
- 議長(山中康樹)** はい、藤間総務課長。
- 藤間総務課長(藤間修)** ええ、ご質問の町内の交差点、あるいはあのう、横断歩道等の標示が薄くなっているという部分があるということでございますので、横断歩道や停止線について、町で出来る町道の場合と、又あのう、標識等の種類によりましては公安委員会へ働きかけなければなりませんので、そういったことを働きかけていきたいと思っておりますので、順次やっていく方向にしたいと思っておりますのでご理解いただきたいと思っております。
- 清水議員(清水優文)** 議長。
- 議長(山中康樹)** 清水議員。
- 清水議員(清水優文)** 順次するというところでございますが、努めて早く鮮明な横断歩道、交差点に表示していただきますようよろしくお願いいたします。ええと通告しました質問事項についてはほとんど終わりました。ええ、まあ、検討していただくということがほとんどでございまして、ええ、たいへん有り難く思っておりますのでございます。ええ、まだ時間は残っておりますが、私の質問はこれで終わりたいと思っております。明日は行政連絡業務等で2名の議員さんが質問したり、ありますので、健闘をお祈りして私の質問を終わります。ありがとうございました。
- 議長(山中康樹)** 以上で清水議員の一般質問は終了いたしました。本日はこれにて散会といたします。たいへんご苦勞様でございました。

—— 午後 2時52分 散会 ——